23. 信者たち章（アル・ムゥミヌーン）

マッカ啓示

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

قَدۡ أَفۡلَحَ ٱلۡمُؤۡمِنُونَ ١ ٱلَّذِينَ هُمۡ فِي صَلَاتِهِمۡ خَٰشِعُونَ الجزء ١٨ الحزب ٣٥
٢ وَٱلَّذِينَ هُمۡ عَنِ ٱللَّغۡوِ مُعۡرِضُونَ ٣ وَٱلَّذِينَ هُمۡ لِلزَّكَوٰةِ
فَٰعِلُونَ ٤ وَٱلَّذِينَ هُمۡ لِفُرُوجِهِمۡ حَٰفِظُونَ ٥ إِلَّا عَلَىٰٓ
أَزۡوَٰجِهِمۡ أَوۡ مَا مَلَكَتۡ أَيۡمَٰنُهُمۡ فَإِنَّهُمۡ غَيۡرُ مَلُومِينَ ٦ فَمَنِ
ٱبۡتَغَىٰ وَرَآءَ ذَٰلِكَ فَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡعَادُونَ ٧ وَٱلَّذِينَ هُمۡ
لِأَمَٰنَٰتِهِمۡ وَعَهۡدِهِمۡ رَٰعُونَ ٨ وَٱلَّذِينَ هُمۡ عَلَىٰ صَلَوَٰتِهِمۡ
يُحَافِظُونَ ٩ أُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡوَٰرِثُونَ ١٠ ٱلَّذِينَ يَرِثُونَ
ٱلۡفِرۡدَوۡسَ هُمۡ فِيهَا خَٰلِدُونَ ١١ وَلَقَدۡ خَلَقۡنَا ٱلۡإِنسَٰنَ مِن
سُلَٰلَةٖ مِّن طِينٖ ١٢ ثُمَّ جَعَلۡنَٰهُ نُطۡفَةٗ فِي قَرَارٖ مَّكِينٖ ١٣
ثُمَّ خَلَقۡنَا ٱلنُّطۡفَةَ عَلَقَةٗ فَخَلَقۡنَا ٱلۡعَلَقَةَ مُضۡغَةٗ فَخَلَقۡنَا
ٱلۡمُضۡغَةَ عِظَٰمٗا فَكَسَوۡنَا ٱلۡعِظَٰمَ لَحۡمٗا ثُمَّ أَنشَأۡنَٰهُ خَلۡقًا
ءَاخَرَۚ فَتَبَارَكَ ٱللَّهُ أَحۡسَنُ ٱلۡخَٰلِقِينَ ١٤ ثُمَّ إِنَّكُم بَعۡدَ ذَٰلِكَ
لَمَيِّتُونَ ١٥ ثُمَّ إِنَّكُمۡ يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِ تُبۡعَثُونَ ١٦ وَلَقَدۡ
خَلَقۡنَا فَوۡقَكُمۡ سَبۡعَ طَرَآئِقَ وَمَا كُنَّا عَنِ ٱلۡخَلۡقِ غَٰفِلِينَ ١٧

本章の趣旨:

信者の成功と不信仰者の損失について。

説明:

①アッラーを信じてその教えを実践する者は望むものを得て、恐れるものから救われることで勝利した。

②それは礼拝を謙虚に捧げる者であり、身体は落ち着き、心は雑念からは澄んだ者である。

③また、虚偽や戯れ、神に背くような言動からは遠ざかる者である。

④また、自我の卑しいところを清め、貯まった財産を施しで浄める者である。

⑤また、自らの恥部を婚外性交や同性愛行為、淫らなことから守る者であり、貞節のある、清潔を好む者である。

⑥ただし、自分の妻や所有する奴隷は別であり、彼女たちとの性交や性的関係が咎められることはない。

⑦よって自分の妻や所有する奴隷のほかに性的な楽しみを求める者は、許されたものから禁じられたものへとアッラーの定めた境界線を越えたこととなる。

⑧また、（信者とは）アッラーやその僕から信託を受けたことやその誓約を守り抜き、信頼を裏切らず、応える者である。

⑨また、礼拝を欠かさず守り、それぞれの時間帯に守るべき作法にのっとって礼拝を捧げる者である。

⑩こうした特徴を兼ね備えている者こそ、受け継ぐ者である。

⑪天国の最上位を受け継ぐ者であり、そこに永遠に留まる。そこでの悦楽が尽きることはない。

⑫**われら**は人類の祖アーダムを土からつくった。地上の土と水が混ぜ合わさったものの精髄からその土は抽出されたのである。

⑬それから**われら**は、その子孫を精子が子宮で出産の時まで落ち着くというかたちで代々続くものとした。

⑭それから**われら**はその後その子宮で定着した精子を赤い塊とし、それからその赤い塊を噛まれた肉塊のようにし、その肉塊を強固な骨とし、その骨に肉をまとわせ、それから魂を吹き込んでこの世に生み出すことで別の段階の創造を成し遂げた。アッラーのなんと素晴らしき創造主であられることよ。

⑮それから人間よ、あなたがたはそうした発達段階を経た後で寿命を迎えれば死ぬこととなるのである。

⑯それからあなたがたは死後、生前の行いを清算するために審判の日に墓から蘇らせられる。

⑰人間よ、**われら**はあなたがたの上に、七つの天を積み重なるように創造した。**われら**は自分が何をつくったかをよくわかっており、忘れることはない。

本諸節の功徳:

- ●成功には、知っておくべきかつこだわるべき様々な要因がある。
- ●創造と教導における段階的発展は神の摂理である。
- ●アッラーの知はその被造物を覆い尽くすものである。

وَأَنزَلۡنَا مِنَ ٱلسَّمَآءِ مَآءَۢ بِقَدَرٖ فَأَسۡكَنَّٰهُ فِي ٱلۡأَرۡضِۖ وَإِنَّا عَلَىٰ
ذَهَابِۭ بِهِۦ لَقَٰدِرُونَ ١٨ فَأَنشَأۡنَا لَكُم بِهِۦ جَنَّٰتٖ مِّن نَّخِيلٖ
وَأَعۡنَٰبٖ لَّكُمۡ فِيهَا فَوَٰكِهُ كَثِيرَةٞ وَمِنۡهَا تَأۡكُلُونَ ١٩ وَشَجَرَةٗ
تَخۡرُجُ مِن طُورِ سَيۡنَآءَ تَنۢبُتُ بِٱلدُّهۡنِ وَصِبۡغٖ لِّلۡأٓكِلِينَ ٢٠
وَإِنَّ لَكُمۡ فِي ٱلۡأَنۡعَٰمِ لَعِبۡرَةٗۖ نُّسۡقِيكُم مِّمَّا فِي بُطُونِهَا وَلَكُمۡ فِيهَا
مَنَٰفِعُ كَثِيرَةٞ وَمِنۡهَا تَأۡكُلُونَ ٢١ وَعَلَيۡهَا وَعَلَى ٱلۡفُلۡكِ تُحۡمَلُونَ
٢٢ وَلَقَدۡ أَرۡسَلۡنَا نُوحًا إِلَىٰ قَوۡمِهِۦ فَقَالَ يَٰقَوۡمِ ٱعۡبُدُواْ ٱللَّهَ
مَا لَكُم مِّنۡ إِلَٰهٍ غَيۡرُهُۥٓۚ أَفَلَا تَتَّقُونَ ٢٣ فَقَالَ ٱلۡمَلَؤُاْ ٱلَّذِينَ
كَفَرُواْ مِن قَوۡمِهِۦ مَا هَٰذَآ إِلَّا بَشَرٞ مِّثۡلُكُمۡ يُرِيدُ أَن يَتَفَضَّلَ عَلَيۡكُمۡ
وَلَوۡ شَآءَ ٱللَّهُ لَأَنزَلَ مَلَٰٓئِكَةٗ مَّا سَمِعۡنَا بِهَٰذَا فِيٓ ءَابَآئِنَا
ٱلۡأَوَّلِينَ ٢٤ إِنۡ هُوَ إِلَّا رَجُلُۢ بِهِۦ جِنَّةٞ فَتَرَبَّصُواْ بِهِۦ حَتَّىٰ حِينٖ
٢٥ قَالَ رَبِّ ٱنصُرۡنِي بِمَا كَذَّبُونِ ٢٦ فَأَوۡحَيۡنَآ إِلَيۡهِ أَنِ ٱصۡنَعِ
ٱلۡفُلۡكَ بِأَعۡيُنِنَا وَوَحۡيِنَا فَإِذَا جَآءَ أَمۡرُنَا وَفَارَ ٱلتَّنُّورُ فَٱسۡلُكۡ
فِيهَا مِن كُلّٖ زَوۡجَيۡنِ ٱثۡنَيۡنِ وَأَهۡلَكَ إِلَّا مَن سَبَقَ عَلَيۡهِ
ٱلۡقَوۡلُ مِنۡهُمۡۖ وَلَا تُخَٰطِبۡنِي فِي ٱلَّذِينَ ظَلَمُوٓاْ إِنَّهُم مُّغۡرَقُونَ ٢٧

(18)**われら**は天から雨水を必要なだけ降らした。多過ぎて朽ちさせることもなく、少な過ぎて足りなくもなくである。人間や動物が役立てられるよう、大地に留まるものとした。**われら**にはそれを過ぎ行くものとし、あなたがたが役立てられないようにすることもできるのである。

(19)あなたがたのために**われら**はそうした水によってナツメヤシやブドウなどの畑をもたらした。そこにはイチジクやザクロ、リンゴなど様々な色や形の果物がある。

(20)また**われら**はシナイ山のある地域にオリーブの木をあなたがたのためにもたらした。その実からは身体に塗り、食べることのできる油が取れる。

(21)人々よ、あなたがたには家畜(ラクダや牛や羊)においてアッラーの力や優しさを指し示す教訓がある。それらの家畜の腹からは、飲む者が潤いを得られる純粋な乳を注ごう。他にもあなたがたはそれらの家畜から乗り物や毛皮、食肉として様々なかたちで利益を得ているのである。

(22)地上では家畜のうちラクダに乗り、海上では船に乗って運ばれる。

(23)**われら**はヌーフ(平安あれ)をその民に遣わした。彼は人々をアッラーへといざなうために言った。「わが民よ、アッラーだけを崇めよ。**かれ**のほかに本当に崇めるに値する存在はないのだ。アッラーのご命令を果たし、禁止を避けることでアッラーを意識しようとはしないのか。」

(24)彼の民のうちアッラーを信じない者たちの貴族や首領はその配下にある者や民衆に言った。「自分のことを使徒だなどと主張する者はお前たちと同じ人間に過ぎない。権力を欲しているだけだ。もし本当にアッラーが使徒の派遣を望まれたなら、人間ではなく天使を遣わされたはずだ。彼の唱えることなど、先祖代々聞いたことがない。

(25)彼は気が狂っているに違いない。自分が何を言っているのかわかっていないのだ。公衆の面前で事がはっきりするまで待ちたまえ。」

(26)ヌーフ(平安あれ)は言った。「主よ、彼らが私を嘘つき呼ばわりするのに対抗できるようお助けください。」

(27)そこで**われら**は彼に啓示を下し、**われら**の監督と指示で船を作るように命じた。いざ彼らを滅ぼす**われら**の命がやってきて、かまどからも水が激しく溢れ出てきたなら、種が存続できるよう全ての生き物のオスとメスをその船に入れ、あなたの妻と息子のようにアッラーから滅びの命があった者以外の家族を入れ、不信仰で不義をなした者たちの救いや破滅回避を求めて**われ**に話しかけてはならない。彼らは確実に洪水で溺れて滅びるのである。

本諸節の功徳:

●雨の降水やそれによって利益を得やすくされているのは、僕たる人間への明らかなアッラーのお優しさである。
●オリーブの木が地位高いことへの示唆
●多神教徒が石の神性を信じ、人間の預言者性を信じないのは、知性に劣る証拠である。
●共同体に使徒が拒絶されるときには、アッラーのお助けが確実にある。

فَإِذَا ٱسۡتَوَيۡتَ أَنتَ وَمَن مَّعَكَ عَلَى ٱلۡفُلۡكِ فَقُلِ ٱلۡحَمۡدُ لِلَّهِ ٱلَّذِي
نَجَّىٰنَا مِنَ ٱلۡقَوۡمِ ٱلظَّٰلِمِينَ ٢٨ وَقُل رَّبِّ أَنزِلۡنِي مُنزَلٗا مُّبَارَكٗا وَأَنتَ
خَيۡرُ ٱلۡمُنزِلِينَ ٢٩ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَأٓيَٰتٖ وَإِن كُنَّا لَمُبۡتَلِينَ ٣٠ ثُمَّ أَنشَأۡنَا
مِنۢ بَعۡدِهِمۡ قَرۡنًا ءَاخَرِينَ ٣١ فَأَرۡسَلۡنَا فِيهِمۡ رَسُولٗا مِّنۡهُمۡ أَنِ ٱعۡبُدُواْ
ٱللَّهَ مَا لَكُم مِّنۡ إِلَٰهٍ غَيۡرُهُۥٓۚ أَفَلَا تَتَّقُونَ ٣٢ وَقَالَ ٱلۡمَلَأُ مِن قَوۡمِهِ
ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ وَكَذَّبُواْ بِلِقَآءِ ٱلۡأٓخِرَةِ وَأَتۡرَفۡنَٰهُمۡ فِي ٱلۡحَيَوٰةِ ٱلدُّنۡيَا
مَا هَٰذَآ إِلَّا بَشَرٞ مِّثۡلُكُمۡ يَأۡكُلُ مِمَّا تَأۡكُلُونَ مِنۡهُ وَيَشۡرَبُ
مِمَّا تَشۡرَبُونَ ٣٣ وَلَئِنۡ أَطَعۡتُم بَشَرٗا مِّثۡلَكُمۡ إِنَّكُمۡ إِذٗا لَّخَٰسِرُونَ
٣٤ أَيَعِدُكُمۡ أَنَّكُمۡ إِذَا مِتُّمۡ وَكُنتُمۡ تُرَابٗا وَعِظَٰمًا أَنَّكُم مُّخۡرَجُونَ
٣٥ ۞ هَيۡهَاتَ هَيۡهَاتَ لِمَا تُوعَدُونَ ٣٦ إِنۡ هِيَ إِلَّا حَيَاتُنَا (ربع الحزب ٣٥)
ٱلدُّنۡيَا نَمُوتُ وَنَحۡيَا وَمَا نَحۡنُ بِمَبۡعُوثِينَ ٣٧ إِنۡ هُوَ إِلَّا
رَجُلٌ ٱفۡتَرَىٰ عَلَى ٱللَّهِ كَذِبٗا وَمَا نَحۡنُ لَهُۥ بِمُؤۡمِنِينَ ٣٨ قَالَ رَبِّ
ٱنصُرۡنِي بِمَا كَذَّبُونِ ٣٩ قَالَ عَمَّا قَلِيلٖ لَّيُصۡبِحُنَّ نَٰدِمِينَ ٤٠
فَأَخَذَتۡهُمُ ٱلصَّيۡحَةُ بِٱلۡحَقِّ فَجَعَلۡنَٰهُمۡ غُثَآءٗۚ فَبُعۡدٗا لِّلۡقَوۡمِ
ٱلظَّٰلِمِينَ ٤١ ثُمَّ أَنشَأۡنَا مِنۢ بَعۡدِهِمۡ قُرُونًا ءَاخَرِينَ ٤٢

(28)そうしてあなたと共にいて救われた信者たちが船に乗ったなら、言うがよい。「不信仰な民から私たちを救ってくださり、彼らを滅ぼしてくださったアッラーに称えあれ」

(29)またこうも言うがよい。「わが主よ、どうか私を地上に祝福されたかたちで降ろしてください。**あなた**こそ、居留地を与えることのできる最良の御方。」

(30)本当にここで述べられた、ヌーフと彼に従った信者たちの救済と不信仰者の破滅には、**われら**の使徒を助け、彼らを拒否する者を滅ぼすことのできる**われら**の力を明示するものがある。**われら**はヌーフを遣わすことでその民を信者と不信仰者、従順な者と歯向かう者が明らかになるよう試したのである。

(31)それからヌーフの民を滅ぼした後、**われら**は別の共同体をもたらした。

(32)そして彼らの中から使徒を遣わし、アッラーへといざなうべく言った。「アッラーのみを崇めてください。至高な**かれ**の他に本当に崇めるべき存在はないのです。**かれ**の禁止を避け、ご命令を果たすことでアッラーを意識しないのですか。」

(33)彼の民のうちアッラーを信じようとせず、あの世や報奨と懲罰を拒否し、**われら**が与えたこの世の恵みで思い上がった者たちの貴族や首領は、その配下にある者や民衆に言った。「こいつはお前たちと同じように飲み食いする人間に過ぎない。使徒として遣わされるに値する特徴などないのだ。

(34)だからもしお前たちが自分と変わらない人間に従ってしまえば、神々を捨てて役に立たない者に従うことで損をし、お前たちよりも優れたことのない者に従うことで損をしてしまうぞ。

(35)自分のことを使徒だなどと主張する者は、お前たちが死んで朽ち果てた土となった後で墓から生きて出されると約束するというのか。そんなことが考えられるだろうか。

(36)土くれとなってしまってからの死後の復活などあり得ない。

(37)人生はこの世かぎりだ。あの世などない。我々のうち生きている者が死ねばもう生き返ることはない。別の者が生まれて生きるだけで、審判の日の清算のために我々が墓から出されることはない。

(38)自分のことを高貴な使徒だと主張する者はアッラーに対して嘘をでっち上げているに過ぎず、我々が彼を信じることはないのだ。」

(39)使徒は言った。「主よ、私を拒否する彼らに仇を返すことで私をお助けください。」

(40)するとアッラーは答えて仰せられた。「少し時間が経てば、あなたを拒否するこれらの者たちは拒否したことを後悔するだろう。」

(41)そこで激しい破滅的な音がした。彼らの頑迷さに懲罰が下され、泡のように滅び去ってしまったのである。不義なす民は滅ぶがよい。

(42)それから彼らを滅ぼした後、**われら**はルートの民やシュアイブの民、そしてユーヌスの民のように別の民をもたらした。

本諸節の功徳:

●恩恵を前にアッラーを称賛することは義務である。
●この世での贅沢は、不注意かつ真理に対する傲慢さの原因である。
●不信仰者の行末は、後悔と損失である。
●不義はアッラーのお慈悲から遠ざかる原因である。

مَا تَسۡبِقُ مِنۡ أُمَّةٍ أَجَلَهَا وَمَا يَسۡتَـٔۡخِرُونَ ٤٣ ثُمَّ أَرۡسَلۡنَا رُسُلَنَا
تَتۡرَاۖ كُلَّ مَا جَآءَ أُمَّةٗ رَّسُولُهَا كَذَّبُوهُۖ فَأَتۡبَعۡنَا بَعۡضَهُم بَعۡضٗا
وَجَعَلۡنَٰهُمۡ أَحَادِيثَۚ فَبُعۡدٗا لِّقَوۡمٖ لَّا يُؤۡمِنُونَ ٤٤ ثُمَّ أَرۡسَلۡنَا مُوسَىٰ
وَأَخَاهُ هَٰرُونَ بِـَٔايَٰتِنَا وَسُلۡطَٰنٖ مُّبِينٍ ٤٥ إِلَىٰ فِرۡعَوۡنَ وَمَلَإِيْهِۦ
فَٱسۡتَكۡبَرُواْ وَكَانُواْ قَوۡمًا عَالِينَ ٤٦ فَقَالُوٓاْ أَنُؤۡمِنُ لِبَشَرَيۡنِ مِثۡلِنَا
وَقَوۡمُهُمَا لَنَا عَٰبِدُونَ ٤٧ فَكَذَّبُوهُمَا فَكَانُواْ مِنَ ٱلۡمُهۡلَكِينَ
٤٨ وَلَقَدۡ ءَاتَيۡنَا مُوسَى ٱلۡكِتَٰبَ لَعَلَّهُمۡ يَهۡتَدُونَ ٤٩ وَجَعَلۡنَا
ٱبۡنَ مَرۡيَمَ وَأُمَّهُۥٓ ءَايَةٗ وَءَاوَيۡنَٰهُمَآ إِلَىٰ رَبۡوَةٖ ذَاتِ قَرَارٖ وَمَعِينٖ
٥٠ يَٰٓأَيُّهَا ٱلرُّسُلُ كُلُواْ مِنَ ٱلطَّيِّبَٰتِ وَٱعۡمَلُواْ صَٰلِحًاۖ إِنِّي بِمَا
تَعۡمَلُونَ عَلِيمٞ ٥١ وَإِنَّ هَٰذِهِۦٓ أُمَّتُكُمۡ أُمَّةٗ وَٰحِدَةٗ وَأَنَا۠ رَبُّكُمۡ
فَٱتَّقُونِ ٥٢ فَتَقَطَّعُوٓاْ أَمۡرَهُم بَيۡنَهُمۡ زُبُرٗاۖ كُلُّ حِزۡبِۭ بِمَا لَدَيۡهِمۡ
فَرِحُونَ ٥٣ فَذَرۡهُمۡ فِي غَمۡرَتِهِمۡ حَتَّىٰ حِينٍ ٥٤ أَيَحۡسَبُونَ أَنَّمَا نُمِدُّهُم
بِهِۦ مِن مَّالٖ وَبَنِينَ ٥٥ نُسَارِعُ لَهُمۡ فِي ٱلۡخَيۡرَٰتِۚ بَل لَّا يَشۡعُرُونَ
٥٦ إِنَّ ٱلَّذِينَ هُم مِّنۡ خَشۡيَةِ رَبِّهِم مُّشۡفِقُونَ ٥٧ وَٱلَّذِينَ هُم
بِـَٔايَٰتِ رَبِّهِمۡ يُؤۡمِنُونَ ٥٨ وَٱلَّذِينَ هُم بِرَبِّهِمۡ لَا يُشۡرِكُونَ ٥٩

(43)これらの真理を拒否する共同体は皆、どんな手段を有していたとしても、定められた滅びの時間を早めることも遅くすることもない。

(44)それから**われら**は使徒たちを続けて遣わしたが、これらの共同体は使徒が遣わされる度に拒否し、それぞれ破滅させ、伝説としてしか残らないほどに滅び去ったのである。使徒が主からもたらしたものを拒否する民に滅びあれ。

(45)それから**われら**はムーサーとその兄弟ハールーンを九つの印(杖、手、イナゴ、シラミ、蛙、血、洪水、旱魃、不作)と明らかな証とともに遣わした。

(46)**われら**は二人をファラオとその民の貴族に遣わしたが、思い上がって彼ら二人を信じようとはしなかった。彼らは民衆に対して威圧と不義をもって高慢な態度を取る者たちであった。

(47)彼らは言った。「我々より優れているわけでもなく、彼らの民(イスラーイールの子孫)は我々に忠実で従順であるのに、我々と同じ人間を信じるのか。」

(48)そうして彼らは二人がアッラーの御許よりもたらしたものを拒否し、その拒否のせいで溺れ死ぬことになったのである。

(49)**われら**はムーサーに律法書を与えた。その民が真理へと導かれ、それにのっとって行動するためである。

(50)**われら**はマルヤムの子イーサーとその母マルヤムを**われら**の力を示す印とした。彼女は父親なしに子を身ごもり、住まいに適した、なだらかで新鮮な水が流れる小高い丘に身を寄せるようにした。

(51)使徒たちよ、**われ**があなたがたに食べてよいものとしたものを食べ、教えにかなった善行をせよ。**われ**はあなたがたの行いを知る者であり、何一つ**われ**にとって不鮮明なことはない。

(52)使徒たちよ、あなたがたの宗教は一つであり、それがイスラームである。**われ**はあなたがたの主であり、**われ**の他に主はいない。**われ**の命令を果たし、禁止を避けることで**われ**を意識せよ。

(53)彼らに付き従った者たちは後で宗教において分裂し、党派となってしまった。どの党派も自分たちが信じるものに自惚れ、彼らの信じるものこそがアッラーの御許で認められるものと信じ、他の者が持つものには見向きもしない。

(54)使徒よ、いざ彼らに懲罰が下されるまで、無知と迷いの中に彼らを放っておくのだ。

(55) (56)これら自己満足の党派は**われら**が与えるこの世の財産や子孫が彼らに相応しい善良さの先取りだと思うのか。事は彼らが思うのとは違い、言い逃れ無用の段階的試練として与えるのだが、彼らがそれを感じることはない。

(57)信仰と至誠心と共にある者は、主に対して心を震わせ、

(58)その書の印を信じ、

(59)主を唯一無二の存在として他の何ものも並べ立てない。

本諸節の功徳:

●高慢さは真理到達の妨げとなる。
●よいものを食べることは、心や行いの健全さに影響をもたらす。
●タウヒード(唯一神信仰)は全ての預言者の教えであり、伝教の要である。
●退廃した者への恩恵付与はその者への歓待ではなく、段階的な試練である。

وَٱلَّذِينَ يُؤْتُونَ مَآ ءَاتَوا۟ وَّقُلُوبُهُمْ وَجِلَةٌ أَنَّهُمْ إِلَىٰ رَبِّهِمْ رَٰجِعُونَ ٦٠
أُو۟لَٰٓئِكَ يُسَٰرِعُونَ فِى ٱلْخَيْرَٰتِ وَهُمْ لَهَا سَٰبِقُونَ ٦١ وَلَا نُكَلِّفُ
نَفْسًا إِلَّا وُسْعَهَا ۖ وَلَدَيْنَا كِتَٰبٌ يَنطِقُ بِٱلْحَقِّ ۚ وَهُمْ لَا يُظْلَمُونَ
٦٢ بَلْ قُلُوبُهُمْ فِى غَمْرَةٍ مِّنْ هَٰذَا وَلَهُمْ أَعْمَٰلٌ مِّن دُونِ ذَٰلِكَ
هُمْ لَهَا عَٰمِلُونَ ٦٣ حَتَّىٰٓ إِذَآ أَخَذْنَا مُتْرَفِيهِم بِٱلْعَذَابِ إِذَا هُمْ
يَجْـَٔرُونَ ٦٤ لَا تَجْـَٔرُوا۟ ٱلْيَوْمَ ۖ إِنَّكُم مِّنَّا لَا تُنصَرُونَ ٦٥ قَدْ كَانَتْ
ءَايَٰتِى تُتْلَىٰ عَلَيْكُمْ فَكُنتُمْ عَلَىٰٓ أَعْقَٰبِكُمْ تَنكِصُونَ ٦٦
مُسْتَكْبِرِينَ بِهِۦ سَٰمِرًا تَهْجُرُونَ ٦٧ أَفَلَمْ يَدَّبَّرُوا۟ ٱلْقَوْلَ أَمْ
جَآءَهُم مَّا لَمْ يَأْتِ ءَابَآءَهُمُ ٱلْأَوَّلِينَ ٦٨ أَمْ لَمْ يَعْرِفُوا۟ رَسُولَهُمْ
فَهُمْ لَهُۥ مُنكِرُونَ ٦٩ أَمْ يَقُولُونَ بِهِۦ جِنَّةٌۢ ۚ بَلْ جَآءَهُم بِٱلْحَقِّ
وَأَكْثَرُهُمْ لِلْحَقِّ كَٰرِهُونَ ٧٠ وَلَوِ ٱتَّبَعَ ٱلْحَقُّ أَهْوَآءَهُمْ لَفَسَدَتِ
ٱلسَّمَٰوَٰتُ وَٱلْأَرْضُ وَمَن فِيهِنَّ ۚ بَلْ أَتَيْنَٰهُم بِذِكْرِهِمْ فَهُمْ
عَن ذِكْرِهِم مُّعْرِضُونَ ٧١ أَمْ تَسْـَٔلُهُمْ خَرْجًا فَخَرَاجُ رَبِّكَ خَيْرٌ ۖ
وَهُوَ خَيْرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٧٢ وَإِنَّكَ لَتَدْعُوهُمْ إِلَىٰ صِرَٰطٍ مُّسْتَقِيمٍ ٧٣
وَإِنَّ ٱلَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ بِٱلْءَاخِرَةِ عَنِ ٱلصِّرَٰطِ لَنَٰكِبُونَ ٧٤

60 恐れつつ善行に励むことでアッラーに近づこうとする者は、アッラーがその出費や善行を受け入れてくださり、審判の日に**かれ**のもとに帰り行く。

61 これらの立派な特徴を持つ者は、率先して善行に取り組む。他よりも積極的に善行に勤しみ、そのために他よりも先を行けるようになった。

62 **われら**は行いのうちできることしか課すことはない。**われら**のもとには、行いをなす者全ての行いを定めた書があり、疑いなき真理を語る。善行が欠けたり、悪行を増やしたりの不当な扱いを受けることはない。

63 だが不信仰者の心は真理を語るこの書、彼らに下された書に不注意であり、彼らには不信仰以外の別の(悪い)行いもある。

64 **われら**が審判の日にこの世で恵まれた思いをしてきた者に懲罰をもたらすと、彼らは助けを求め大声を上げる。

65 だが、そこでアッラーのお慈悲の望みを断つことが言われる。「この日に叫んでも助けを求めても、もう手遅れである。アッラーの懲罰からあなたがたを守ってくれる援助者はいないのだ。」

66 生前あなたがたにはアッラーの書の章句が読み上げられたが、それを嫌がって背を向け、

67 人々に対して高慢になり、本当はそうではないのにハラム(清域)の民だと思い込んでいる。その本当の民は唯一の神を意識する者のはずだが、あなたがたは夜間にその周りで悪口を言い合っている。それを尊びはしていないのである。

68 これらの多神教徒は、アッラーがクルアーンで下したものを信じて行うべく考えようとはしないのか。彼らの先祖がもたらすことのなかったものをもたらしたためか、彼らはそれに背を向けて拒否した。

69 あるいは彼らはアッラーが遣わしたムハンマド(祝福と平安あれ)を知らずに拒否するのか。いや、彼らは彼のことをよく知り、その誠実さと実直さを知っているはずである。

70 それどころか、彼らは言うのだ。「彼は狂人だ」と。彼らは拒否するが、彼は確かにアッラーの御許から疑いなき真理をもたらしたのである。だが彼らのほとんどは真理を嫌い、嫉妬と自分たちが慣れ親しんだものへの固執から彼を憎む。

71 もし万が一アッラーが万事をかれらが望むようにされたなら、諸天と大地は混乱し、そこにいる者たちもまた混乱してしまうだろう。事の先行きや計画の成否を知らないからである。**われら**はクルアーンというかれらにとっての誇りと栄誉となるものをもたらしたが、かれらはそれに背こうとするのである。

72 使徒よ、あなたは彼らに見返りの報奨を求めたりしただろうか。それで彼らが伝教を拒むことになっただろうか。いや、そんなことは起きてはいない。あなたの主の報奨は彼らやその他のものからの褒美よりも素晴らしく、至高なる**かれ**こそは糧を与える者の中でも最良の御方だからである。

73 使徒よ、あなたが彼らや他の人たちをいざなうのは、曲がったところのない真っ直ぐな道、イスラームの道である。

74 だが、あの世を信じようとせず、そこにある清算や懲罰や報奨を信じない者は、イスラームの道から遠ざかり、火獄へと至る曲がりくねった様々な道に傾いてしまうのである。

本諸節の功徳:
●信者は自分の善行が受け入れられるかどうか恐れるものである。
●できないことは課せられないのは、僕たる人間にとってのお慈悲である。
●贅沢は真っ直ぐな道を歩み続ける上での妨げの一つであり、滅びの原因である。
●人間の理性がいかに欠けており、ためになる多くのことを理解できないでいるか。

نصف الحزب ٣٥

۞ وَلَوْ رَحِمْنَٰهُمْ وَكَشَفْنَا مَا بِهِم مِّن ضُرٍّ لَّلَجُّوا۟ فِى طُغْيَٰنِهِمْ
يَعْمَهُونَ ٧٥ وَلَقَدْ أَخَذْنَٰهُم بِٱلْعَذَابِ فَمَا ٱسْتَكَانُوا۟ لِرَبِّهِمْ
وَمَا يَتَضَرَّعُونَ ٧٦ حَتَّىٰٓ إِذَا فَتَحْنَا عَلَيْهِم بَابًا ذَا عَذَابٍ شَدِيدٍ
إِذَا هُمْ فِيهِ مُبْلِسُونَ ٧٧ وَهُوَ ٱلَّذِىٓ أَنشَأَ لَكُمُ ٱلسَّمْعَ وَٱلْأَبْصَٰرَ
وَٱلْأَفْـِٔدَةَ ۚ قَلِيلًا مَّا تَشْكُرُونَ ٧٨ وَهُوَ ٱلَّذِى ذَرَأَكُمْ فِى ٱلْأَرْضِ
وَإِلَيْهِ تُحْشَرُونَ ٧٩ وَهُوَ ٱلَّذِى يُحْىِۦ وَيُمِيتُ وَلَهُ ٱخْتِلَٰفُ
ٱلَّيْلِ وَٱلنَّهَارِ ۚ أَفَلَا تَعْقِلُونَ ٨٠ بَلْ قَالُوا۟ مِثْلَ مَا قَالَ
ٱلْأَوَّلُونَ ٨١ قَالُوٓا۟ أَءِذَا مِتْنَا وَكُنَّا تُرَابًا وَعِظَٰمًا أَءِنَّا
لَمَبْعُوثُونَ ٨٢ لَقَدْ وُعِدْنَا نَحْنُ وَءَابَآؤُنَا هَٰذَا مِن قَبْلُ
إِنْ هَٰذَآ إِلَّآ أَسَٰطِيرُ ٱلْأَوَّلِينَ ٨٣ قُل لِّمَنِ ٱلْأَرْضُ وَمَن
فِيهَآ إِن كُنتُمْ تَعْلَمُونَ ٨٤ سَيَقُولُونَ لِلَّهِ ۚ قُلْ أَفَلَا
تَذَكَّرُونَ ٨٥ قُلْ مَن رَّبُّ ٱلسَّمَٰوَٰتِ ٱلسَّبْعِ وَرَبُّ ٱلْعَرْشِ
ٱلْعَظِيمِ ٨٦ سَيَقُولُونَ لِلَّهِ ۚ قُلْ أَفَلَا تَتَّقُونَ ٨٧ قُلْ مَنۢ
بِيَدِهِۦ مَلَكُوتُ كُلِّ شَىْءٍ وَهُوَ يُجِيرُ وَلَا يُجَارُ عَلَيْهِ إِن
كُنتُمْ تَعْلَمُونَ ٨٨ سَيَقُولُونَ لِلَّهِ ۚ قُلْ فَأَنَّىٰ تُسْحَرُونَ ٨٩

(75)たとえ万が一**われら**が彼らに慈悲をかけ、旱魃(かんばつ)や空腹から彼らを救い出したとしても、彼らは真理よりも迷妄にこだわり、躊躇い、右往左往するだろう。
(76)**われら**は彼らをいくつもの災難で試練に会わせた。だが、彼らは主に謙虚になることもなく、災難に襲われた際にそれを取り除いてもらえるよう畏(かしこ)まって祈ることもなかった。

(77)**われら**が激しい懲罰の扉を開いただけで、彼らは救いや良い出来事全てに絶望してしまった。
見聞きできて考えることのできる者には復活の拒否が生じないはずなので、アッラーは彼らにこれまでお授けになった恩恵を思い起こさせて仰せられた。

(78)復活を拒否する者よ、至高なるアッラーこそがあなたがたの聴覚や視覚、理解する心を創られたのだ。にもかかわらず、こうした恩恵を前にあなたがたは少ししか感謝しない。

(79)人々よ、**かれ**こそはあなたがたを地上に創造され、審判の日には生前の行いの清算と報いのため、**かれ**のところにのみ集められるのである。

(80)至高なる**かれ**の他に生かすことのできる者はなく、**かれ**の他に死なすことのできる者はない。また、昼夜の違いや明暗、長短をつかさどるのは**かれ**だけである。それでもあなたがたは、**かれ**の力や創造と計画における唯一性がわからないのか。

(81)むしろ彼らは、彼らの父祖や先祖と同じように不信仰を口にした。

(82)彼らはあり得ないこととして拒否しつつ言った。「死んでから土に還り、朽ち果てた骨となった後で、生きて清算を受けるというのか?」

(83)「我々はすでにこの死後の復活という約束を聞かされ、我々以前の先祖も約束されたが、その約束が成就されたのを見たことはない。昔の伝説や迷信に過ぎないのだ。」

(84)使徒よ、復活を拒否するこれらの不信仰者に言うがよい。「もしあなたがたに知識があるというなら、この大地やそこに生きる存在は誰のものでしょうか。」

(85)「大地やそこに生きる存在はアッラーのもの」と言うだろう。ならば言いなさい。「大地やそこに生きる存在を所有する存在なら、死後あなたがたを蘇らせることも簡単にできるのがわからないのですか。」

(86)彼らに言いなさい。「七つの天の主は誰でしょうか。」「それ以上に偉大な被造物はないという玉座の主は誰でしょうか。」
(87)「七つの天と偉大な玉座はアッラーのもの」と彼らは答えるだろう。ならば言いなさい。「**かれ**の懲罰をこうむらないで済むように、**かれ**のご命令を果たし、禁止を避けることで**かれ**を意識しようとはしないのですか。」

(88)彼らに言いなさい。「もしあなたがたに知識があるというなら、何ものも例外とはなり得ない、全てのものを所有するのは誰だというのです。かれはその僕たちのうちお望みの者を助け、かれが不幸を望まれた者は誰一人それをさえぎってその懲罰を防ぐことのできない存在です。」

(89)彼らは言うだろう。「全てのものを所有するのは至高なる**かれ**だ。」ならば言いなさい。「それを認めておきながら、どうしてあなたがたは**かれ**以外のものを崇めて平気でいられるのですか。」

本諸節の功徳:
●自分の身に起こる恩恵や災難を通して学ぼうとしないのは、不信仰者の天性が歪んでしまった証拠である。
●恩恵に覆いをかけて認めないのは、不信仰者の特徴の一つである。
●盲目的な習慣への追従は、真理到達を妨げる。
●万物を司る存在「主」の認識は、万物の「神」の認識を伴わなければ、救いにはならない。

بَلْ أَتَيْنَٰهُم بِٱلْحَقِّ وَإِنَّهُمْ لَكَٰذِبُونَ ٩٠ مَا ٱتَّخَذَ ٱللَّهُ مِن
وَلَدٍ وَمَا كَانَ مَعَهُۥ مِنْ إِلَٰهٍ إِذًا لَّذَهَبَ كُلُّ إِلَٰهٍۭ بِمَا خَلَقَ
وَلَعَلَا بَعْضُهُمْ عَلَىٰ بَعْضٍ سُبْحَٰنَ ٱللَّهِ عَمَّا يَصِفُونَ ٩١
عَٰلِمِ ٱلْغَيْبِ وَٱلشَّهَٰدَةِ فَتَعَٰلَىٰ عَمَّا يُشْرِكُونَ ٩٢ قُل رَّبِّ
إِمَّا تُرِيَنِّى مَا يُوعَدُونَ ٩٣ رَبِّ فَلَا تَجْعَلْنِى فِى ٱلْقَوْمِ ٱلظَّٰلِمِينَ
٩٤ وَإِنَّا عَلَىٰٓ أَن نُّرِيَكَ مَا نَعِدُهُمْ لَقَٰدِرُونَ ٩٥ ٱدْفَعْ بِٱلَّتِى
هِىَ أَحْسَنُ ٱلسَّيِّئَةَ نَحْنُ أَعْلَمُ بِمَا يَصِفُونَ ٩٦ وَقُل رَّبِّ
أَعُوذُ بِكَ مِنْ هَمَزَٰتِ ٱلشَّيَٰطِينِ ٩٧ وَأَعُوذُ بِكَ رَبِّ أَن
يَحْضُرُونِ ٩٨ حَتَّىٰٓ إِذَا جَآءَ أَحَدَهُمُ ٱلْمَوْتُ قَالَ رَبِّ
ٱرْجِعُونِ ٩٩ لَعَلِّىٓ أَعْمَلُ صَٰلِحًا فِيمَا تَرَكْتُ كَلَّآ إِنَّهَا
كَلِمَةٌ هُوَ قَآئِلُهَا وَمِن وَرَآئِهِم بَرْزَخٌ إِلَىٰ يَوْمِ يُبْعَثُونَ ١٠٠
فَإِذَا نُفِخَ فِى ٱلصُّورِ فَلَآ أَنسَابَ بَيْنَهُمْ يَوْمَئِذٍ وَلَا يَتَسَآءَلُونَ
١٠١ فَمَن ثَقُلَتْ مَوَٰزِينُهُۥ فَأُو۟لَٰٓئِكَ هُمُ ٱلْمُفْلِحُونَ ١٠٢ وَمَنْ
خَفَّتْ مَوَٰزِينُهُۥ فَأُو۟لَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ خَسِرُوٓا۟ أَنفُسَهُمْ فِى جَهَنَّمَ
خَٰلِدُونَ ١٠٣ تَلْفَحُ وُجُوهَهُمُ ٱلنَّارُ وَهُمْ فِيهَا كَٰلِحُونَ ١٠٤

(90)事は彼らの主張とは異なる。しかと**われら**はあなたがたに疑いのない真理をもたらしたではないか。それでも彼らはアッラーに伴侶や子供がいると嘘をつく。アッラーは彼らの言説の遠く及ばない超越者であられる。

(91)アッラーは不信仰者が思い込んでいるように子供を持ちはしない。**かれ**のほかに正当な崇拝に値するものはないのである。もし万が一**かれ**のほかに崇拝に値するものがいたならば、崇められるものは自分がつくったものを引き連れて行ってしまうだろうし、お互いに競い合うことでこの世界の秩序は崩れて落ちてしまうだろう。だが現実にはそのようなことは一つも起きていないのだから、正当に崇められるべきは唯一で、アッラーだけだということを証明している。子供や伴侶など多神教徒が形容する、**かれ**に相応しくない特徴からは無関係で清純な御方である。

(92)かれはその被造物で目の前にはいないものも全て知っておられ、目で見て知覚できるものも全て知っておられ、わからないことは何一つない。そんな**かれ**に伴侶などあり得ようか。

(93)使徒よ、言いなさい。「主よ、これらの多神教徒に対して**あなた**が約束された懲罰を見せてください。」

(94)「主よ、私には彼らの行末が見えますが、どうか私を彼らの仲間には入れず、彼らが受ける懲罰の巻き添えをくらわずともよいようにしてください。」

(95)**われら**には彼らに約束した懲罰をあなたに見せることができる。**われら**にそれを妨げるものはなく、他のことも同じである。

(96)使徒よ、あなたに嫌がらせをする者によりよい態度で対応しなさい。彼らを赦し、嫌がらせに耐えるのだ。多神崇拝や拒絶反応といった彼らの特徴を**われら**はよくわかっており、魔術や狂気といった相応しくない特徴であなたを形容することもわかっている。

(97)言いなさい。「主よ、私は悪魔の誘惑や囁きに左右されないよう**あなた**に縋ります。

(98)私にかかわることのうち、どれかに彼らが侵入してこないよう、**あなた**のご加護を求めます。」

(99)これらの多神教徒のうち誰かに死が訪れると、その身に起こることを理解して、生前しそびれたことやアッラーの権利について過ちを犯したことを後悔しつつ、言うのである。「主よ、今一度生前の状態に戻してください。」

(100)「戻ることができれば、きっとわたしも善行を果たすことができます。」いや、決して、事はかれの望み通りにはならない。それは単なる言い分に過ぎず、たとえ万が一この世に戻されたとしても、約束を果たしはしないだろう。これらの死者は復活と蘇生の日に至るまで、この世とあの世の間に留まることとなる。だが、かれらがこの世に戻ってしそびれたことを果たし、過ちを正すことはできないのである。

(101)よって審判の日の到来を告げる第二の角笛吹きを任されている天使が角笛を吹くと、あの世の恐ろしさを前に、誇り合っていた血縁関係も虚しく、自分のことを気にするのに精いっぱいで誰も互いに尋ねようとはしない。

(102)善行が悪行に勝って(善行の)秤が重い者は、望むものを得て、恐れていたものを避けることで成功者となる。

(103)一方、悪行が善行に勝って(善行の)秤が軽い者は、自分に害をなすことをして自らを損ない、信仰や善行といった自分のためになることをしなかった者である。彼らは火獄に留まり、そこから出ることはない。

(104)彼らの顔は炎で焼き尽くされ、しかめ面のあまり歯がむき出しになってしまったほどである。

本諸節の功徳:

- この世界の秩序均衡によるアッラーの唯一性の証明。
- アッラーの知識の網羅性。
- 自分に悪さをなした人にも最善の接し方で対応するのはイスラームの高貴な礼節であり、敵対する側に対しても大きな効果がある。
- 悪魔の囁きや誘惑からアッラーのご加護を求めることは必要不可欠である。

أَلَمۡ تَكُنۡ ءَايَٰتِي تُتۡلَىٰ عَلَيۡكُمۡ فَكُنتُم بِهَا تُكَذِّبُونَ ١٠٥ قَالُواْ
رَبَّنَا غَلَبَتۡ عَلَيۡنَا شِقۡوَتُنَا وَكُنَّا قَوۡمٗا ضَآلِّينَ ١٠٦ رَبَّنَآ
أَخۡرِجۡنَا مِنۡهَا فَإِنۡ عُدۡنَا فَإِنَّا ظَٰلِمُونَ ١٠٧ قَالَ ٱخۡسَـُٔواْ فِيهَا
وَلَا تُكَلِّمُونِ ١٠٨ إِنَّهُۥ كَانَ فَرِيقٞ مِّنۡ عِبَادِي يَقُولُونَ رَبَّنَآ ءَامَنَّا
فَٱغۡفِرۡ لَنَا وَٱرۡحَمۡنَا وَأَنتَ خَيۡرُ ٱلرَّٰحِمِينَ ١٠٩ فَٱتَّخَذۡتُمُوهُمۡ
سِخۡرِيًّا حَتَّىٰٓ أَنسَوۡكُمۡ ذِكۡرِي وَكُنتُم مِّنۡهُمۡ تَضۡحَكُونَ ١١٠
إِنِّي جَزَيۡتُهُمُ ٱلۡيَوۡمَ بِمَا صَبَرُوٓاْ أَنَّهُمۡ هُمُ ٱلۡفَآئِزُونَ ١١١ قَٰلَ
كَمۡ لَبِثۡتُمۡ فِي ٱلۡأَرۡضِ عَدَدَ سِنِينَ ١١٢ قَالُواْ لَبِثۡنَا يَوۡمًا أَوۡ بَعۡضَ
يَوۡمٖ فَسۡـَٔلِ ٱلۡعَآدِّينَ ١١٣ قَٰلَ إِن لَّبِثۡتُمۡ إِلَّا قَلِيلٗاۖ لَّوۡ أَنَّكُمۡ
كُنتُمۡ تَعۡلَمُونَ ١١٤ أَفَحَسِبۡتُمۡ أَنَّمَا خَلَقۡنَٰكُمۡ عَبَثٗا وَأَنَّكُمۡ
إِلَيۡنَا لَا تُرۡجَعُونَ ١١٥ فَتَعَٰلَى ٱللَّهُ ٱلۡمَلِكُ ٱلۡحَقُّۖ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا
هُوَ رَبُّ ٱلۡعَرۡشِ ٱلۡكَرِيمِ ١١٦ وَمَن يَدۡعُ مَعَ ٱللَّهِ إِلَٰهًا
ءَاخَرَ لَا بُرۡهَٰنَ لَهُۥ بِهِۦ فَإِنَّمَا حِسَابُهُۥ عِندَ رَبِّهِۦٓۚ إِنَّهُۥ لَا يُفۡلِحُ
ٱلۡكَٰفِرُونَ ١١٧ وَقُل رَّبِّ ٱغۡفِرۡ وَٱرۡحَمۡ وَأَنتَ خَيۡرُ ٱلرَّٰحِمِينَ ١١٨

آياتها ٦٤ — سُورَةُ النُّورِ — ترتيبها ٢٤

(105)彼らへの詰問として言われるだろう。「生前クルアーンの章句が読誦されていたにもかかわらず、あなたがたはそれを拒否しただろう。」

(106)彼らは言う。「我らが主よ、**あなた**もご存知のように我々には不幸が定められていたのです。だから我々は真理から外れた迷妄の民でした。

(107)主よ、どうか我々を火獄から出してください。もしまた我々が以前と同じように不信仰や迷妄に立ち戻ったなら、我々は己に不義をなす者としてもう言い訳無用です。」

(108)アッラーは仰せられる。「火獄の中で恥辱にまみれながら辱めを受け続けるがよい。われに話しかけるな。」

(109)わが僕たちのうちの一集団で、**われ**を信じた者たちは言ったものである。「我らが主よ、私たちは**あなた**を信じます。どうか私たちの罪をお赦しください。**あなた**のお慈悲によって私たちに慈悲をかけてください。**あなた**こそ慈悲深い者の中でも最良の御方。」

(110)だが、あなたがたはこれらの主に祈る信者を嘲笑の的とし、嘲笑に夢中になるほどに馬鹿にして嘲っていた。

(111)**われ**はこれらの信者に審判の日における天国獲得で報いた。それは彼らがアッラーにお仕えするうえでよく辛抱し、あなたがたから受けた嫌がらせによく耐えたからである。

彼ら(不信仰者たち)がやり直しをすべく生前への逆戻りをお願いすると、望みさえすれば悔い改めることのできた長生きした時間を思い起こさせた。

(112)かれは仰せられた。「地上に何年いたのか。どれほどの時間を無駄にしたのか。」

(113)彼らは返答した。「1日または1日の一部だけおりました。計算に詳しい人にお尋ねください。」

(114)彼は言った。「もし滞在期間がわかれば、アッラーにお仕えするうえで要する辛抱も容易いものとなっただろうくらいに、この世では少ししかおりませんでした。」

(115)人々よ、**われら**があなたがたをつくったのは、英知なしの遊びだと思うのか。動物のように報奨も懲罰もなく、審判の日に清算と応報のために**われら**のもとへ戻らないというのか。

(116)その創造においてお望みのまま自在に操る王たるアッラーを、不完全な特徴からは遠ざけよ。**かれ**こそは真理であり、そのお約束も真理であり、その御言葉も真理である。**かれ**のほかに正当に崇められる存在はなく、最も偉大な被造物である高貴な玉座の主である。最も偉大な被造物の主たる存在は、すなわち被造物全ての主であろう。

(117)アッラーの他に崇められるに値する証拠もない別の存在(それがアッラー以外に崇められる全ての存在の特徴である)を崇める者は、その悪しき行いの報いは至高なる主の御許にあり、**かれ**こそはその者に懲罰で報いられる。不信仰者たちが望むものを得ることはなく、恐れるものから救われることはない。

(118)使徒よ、言いなさい。「主よ、私の罪をお赦しください。**あなた**のお慈悲によって私にお慈悲をかけてください。**あなた**こそ罪ある者へお慈悲をかけ、その悔い改めを受け入れる存在の中でも最良の御方。」

本諸節の功徳:

●不信仰者はアッラーの御許では卑しく軽んじられた存在である。
●敬虔な人への嘲笑は、懲罰の報いが相応しい大きな罪である。
●人生を無駄にすることは、不信仰において欠かせない特徴である。
●アッラーへの称賛は、ドゥアー(個人的な祈願)における礼節の表れである。
●至高のアッラーが本章を信者たちの成功の特徴を述べることで始め、不信仰者たちの損失と不成功を述べることで本章を閉じているのには、対照的な整合性が見られる。

24. 御光章（アン・ヌール）

マディーナ啓示

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

سُورَةٌ أَنزَلۡنَٰهَا وَفَرَضۡنَٰهَا وَأَنزَلۡنَا فِيهَآ ءَايَٰتِۭ بَيِّنَٰتٖ لَّعَلَّكُمۡ تَذَكَّرُونَ ثلاثة أرباع الحزب ٣٥
١ ٱلزَّانِيَةُ وَٱلزَّانِي فَٱجۡلِدُواْ كُلَّ وَٰحِدٖ مِّنۡهُمَا مِاْئَةَ جَلۡدَةٖۖ وَلَا تَأۡخُذۡكُم
بِهِمَا رَأۡفَةٞ فِي دِينِ ٱللَّهِ إِن كُنتُمۡ تُؤۡمِنُونَ بِٱللَّهِ وَٱلۡيَوۡمِ ٱلۡأٓخِرِۖ وَلۡيَشۡهَدۡ
عَذَابَهُمَا طَآئِفَةٞ مِّنَ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ٢ ٱلزَّانِي لَا يَنكِحُ إِلَّا زَانِيَةً أَوۡ مُشۡرِكَةٗ
وَٱلزَّانِيَةُ لَا يَنكِحُهَآ إِلَّا زَانٍ أَوۡ مُشۡرِكٞۚ وَحُرِّمَ ذَٰلِكَ عَلَى ٱلۡمُؤۡمِنِينَ
٣ وَٱلَّذِينَ يَرۡمُونَ ٱلۡمُحۡصَنَٰتِ ثُمَّ لَمۡ يَأۡتُواْ بِأَرۡبَعَةِ شُهَدَآءَ
فَٱجۡلِدُوهُمۡ ثَمَٰنِينَ جَلۡدَةٗ وَلَا تَقۡبَلُواْ لَهُمۡ شَهَٰدَةً أَبَدٗاۚ وَأُوْلَٰٓئِكَ
هُمُ ٱلۡفَٰسِقُونَ ٤ إِلَّا ٱلَّذِينَ تَابُواْ مِنۢ بَعۡدِ ذَٰلِكَ وَأَصۡلَحُواْ فَإِنَّ
ٱللَّهَ غَفُورٞ رَّحِيمٞ ٥ وَٱلَّذِينَ يَرۡمُونَ أَزۡوَٰجَهُمۡ وَلَمۡ يَكُن لَّهُمۡ
شُهَدَآءُ إِلَّآ أَنفُسُهُمۡ فَشَهَٰدَةُ أَحَدِهِمۡ أَرۡبَعُ شَهَٰدَٰتِۭ بِٱللَّهِ إِنَّهُۥ لَمِنَ
ٱلصَّٰدِقِينَ ٦ وَٱلۡخَٰمِسَةُ أَنَّ لَعۡنَتَ ٱللَّهِ عَلَيۡهِ إِن كَانَ مِنَ ٱلۡكَٰذِبِينَ
٧ وَيَدۡرَؤُاْ عَنۡهَا ٱلۡعَذَابَ أَن تَشۡهَدَ أَرۡبَعَ شَهَٰدَٰتِۭ بِٱللَّهِ إِنَّهُۥ لَمِنَ
ٱلۡكَٰذِبِينَ ٨ وَٱلۡخَٰمِسَةَ أَنَّ غَضَبَ ٱللَّهِ عَلَيۡهَآ إِن كَانَ مِنَ ٱلصَّٰدِقِينَ
٩ وَلَوۡلَا فَضۡلُ ٱللَّهِ عَلَيۡكُمۡ وَرَحۡمَتُهُۥ وَأَنَّ ٱللَّهَ تَوَّابٌ حَكِيمٌ ١٠

本章の趣旨:

貞節と名誉保護、ムスリム社会を醜事や偽信者の奸計から守ること。

説明:

①この章は**われら**が啓示し、義務として定めたもので、あなた方が留意してそれを実践するように、その中にははっきりと数々の印を啓示した。

②未婚の姦淫女性と男性については、各人を100回の鞭で打て。あなた方がアッラーと最後の日を信じるなら、アッラーの教えに従い、かれら二人に優しさや情けをかけて、手を緩めてはいけない。そして信者の一団を、かれら二人の苦痛（処罰）に立ち会わせよ。それは彼らの罪悪を広く知らしめて、彼ら自身と他の人を抑制するためである。

③姦淫の習慣がある男性は、姦淫する女性または姦淫を避けない多神教徒の女性としか結婚を望まないものである。また姦淫の習慣がある女性も、姦淫する男性または姦淫を避けない多神教徒の男性としか結婚を望まないものである。いずれにせよ、多神教徒との結婚は許されないのだが。姦淫した男女との結婚は、信者に禁じられている。

④貞節な女性あるいは男性を姦淫の罪で訴えて4名の証人を上げられない人たちには、（指導者たちよ）彼らを80回の鞭で打て。かれらの証言を受け入れてはいけない。貞節な女性を姦淫の罪で訴えるのは、アッラーに従わない人たちである。

⑤ただし、その後、改心して身を正す人たちは別である。誠にアッラーはよく赦される方で、その証言を受け入れられる。アッラーは悔い改める僕をよく赦され、かれらに慈悲深い方なのである。

⑥自分の妻を姦淫の罪で訴え、自分以外に証人のない人たちについては、自分が真実の証言者であることを、四度アッラーにかけて誓言させよ。

⑦そして五度目には、もし自分の妻を訴える言葉が虚偽なら、アッラーの呪いが自分の上に下るようにという言葉を、加えることとする。

⑧一方、かの女からその罰を回避させるには、夫が嘘をついていると、四度かの女にアッラーにかけて誓言させ、

⑨五度目には、もし夫が真実の証言者であるなら、アッラーの怒りが自分の上に下るようにと誓言させよ。

⑩もしアッラーの恩恵や慈悲があなた方になく、アッラーがいつもよく赦され、措置や法規において英明な方でなかったなら、すでにあなた方は懲罰を受け、またそれを通じて辱めを受けていただろう。

本諸節の功徳:

●偉大なことに関する議論は、その偉大さを偲ばせる仕方で行なわれるべきである。
●姦通をする者は、ムスリムの社会では敬意も慈悲も失うこととなる。
●姦通を社会的に取り締まることは、社会をそれから守ることとなる。またその抑止にもなる。
●明証もなく他人を姦通で訴える人への罰には種々あって、物的な刑罰や、証言拒否や掟破りとの裁決などの無形のものもある。このことは、その行為の重大性を物語っている。
●姦通は明証がなければ確証されない。明証もなく人を姦通で訴えるのは、掟破りとなる。

إِنَّ ٱلَّذِينَ جَآءُو بِٱلۡإِفۡكِ عُصۡبَةٞ مِّنكُمۡۚ لَا تَحۡسَبُوهُ شَرّٗا لَّكُمۖ بَلۡ
هُوَ خَيۡرٞ لَّكُمۡۚ لِكُلِّ ٱمۡرِيٕٖ مِّنۡهُم مَّا ٱكۡتَسَبَ مِنَ ٱلۡإِثۡمِۚ وَٱلَّذِي تَوَلَّىٰ
كِبۡرَهُۥ مِنۡهُمۡ لَهُۥ عَذَابٌ عَظِيمٞ ١١ لَّوۡلَآ إِذۡ سَمِعۡتُمُوهُ ظَنَّ ٱلۡمُؤۡمِنُونَ
وَٱلۡمُؤۡمِنَٰتُ بِأَنفُسِهِمۡ خَيۡرٗا وَقَالُواْ هَٰذَآ إِفۡكٞ مُّبِينٞ ١٢ لَّوۡلَا
جَآءُو عَلَيۡهِ بِأَرۡبَعَةِ شُهَدَآءَۚ فَإِذۡ لَمۡ يَأۡتُواْ بِٱلشُّهَدَآءِ فَأُوْلَٰٓئِكَ
عِندَ ٱللَّهِ هُمُ ٱلۡكَٰذِبُونَ ١٣ وَلَوۡلَا فَضۡلُ ٱللَّهِ عَلَيۡكُمۡ وَرَحۡمَتُهُۥ
فِي ٱلدُّنۡيَا وَٱلۡأٓخِرَةِ لَمَسَّكُمۡ فِي مَآ أَفَضۡتُمۡ فِيهِ عَذَابٌ عَظِيمٌ ١٤
إِذۡ تَلَقَّوۡنَهُۥ بِأَلۡسِنَتِكُمۡ وَتَقُولُونَ بِأَفۡوَاهِكُم مَّا لَيۡسَ لَكُم بِهِۦ عِلۡمٞ
وَتَحۡسَبُونَهُۥ هَيِّنٗا وَهُوَ عِندَ ٱللَّهِ عَظِيمٞ ١٥ وَلَوۡلَآ إِذۡ سَمِعۡتُمُوهُ
قُلۡتُم مَّا يَكُونُ لَنَآ أَن نَّتَكَلَّمَ بِهَٰذَا سُبۡحَٰنَكَ هَٰذَا بُهۡتَٰنٌ عَظِيمٞ
١٦ يَعِظُكُمُ ٱللَّهُ أَن تَعُودُواْ لِمِثۡلِهِۦٓ أَبَدًا إِن كُنتُم مُّؤۡمِنِينَ ١٧
وَيُبَيِّنُ ٱللَّهُ لَكُمُ ٱلۡأٓيَٰتِۚ وَٱللَّهُ عَلِيمٌ حَكِيمٌ ١٨ إِنَّ ٱلَّذِينَ
يُحِبُّونَ أَن تَشِيعَ ٱلۡفَٰحِشَةُ فِي ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ لَهُمۡ عَذَابٌ أَلِيمٞ
فِي ٱلدُّنۡيَا وَٱلۡأٓخِرَةِۚ وَٱللَّهُ يَعۡلَمُ وَأَنتُمۡ لَا تَعۡلَمُونَ ١٩ وَلَوۡلَا
فَضۡلُ ٱللَّهِ عَلَيۡكُمۡ وَرَحۡمَتُهُۥ وَأَنَّ ٱللَّهَ رَءُوفٞ رَّحِيمٞ ٢٠

⑪確かにこの虚言(信者の母である預言者の妻アーイシャ(アッラーの嘉しあれ)が姦淫したとする)を広めたのは、あなた方の中の一団である。これはあなた方にとって悪ではなく、逆にあなた方にとって善い部分もある。なぜなら、信者は試みられて報奨を受けるし、信者の母は身の潔癖が証明される。他方、彼女を中傷し嘘をついた者は自分で稼いだ罪を負い、中でもそれを開始させて大半の罪を負う者には重大な苦痛が与えられるからである。それは偽信者の親玉である、アブドッラー・イブン・ウバイイ・イブン・サルールである。

⑫あなた方男女の信者がそのとんでもない虚言を聞いたとき、なぜ中傷された信者同胞の正しさを信じて、そのような訴えは明らかに虚言であると言わなかったのか。

⑬なぜ、かれらは信者の母アーイシャ(アッラーの嘉しあれ)に対する虚言について、4名の証人を挙げなかったのか。かれらが証人をもたらすことなどできるはずもないが、そうしないかぎり、これらの人たちはアッラーの裁きにおいて嘘つきとなるのだ。

⑭もしアッラーの恩恵や慈悲があなた方になければ、信者の母に対する嘘と非難についてあれこれ口にしたせいで、重大な苦痛があなた方を襲っていただろう。しかし実際は、あなた方を急ぎ罰することはなく、また悔い改める者の悔悟を受け入れられた。

⑮あなた方が舌先でそれを取り上げ、噂を広めたとき、あなた方は何が真実かよく知らないことを言っていたのだ。無実の人に対する嘘と非難であるので、アッラーの御元では重大なことであったにも関わらず、あなた方はそれを容易で軽いと見ていたのだ。

⑯あなた方はそれを聞いたとき、なぜこう言わなかったのか。「これはわたしたちが口にすべきことではない、主よ、清浄さは**あなた**のもの。これは信者の母を責める重大な中傷です。」

⑰もしあなた方が信者なら、アッラーはこのようなことを繰り返さないように、そして無罪の人を姦通で非難しないようにと諭す。

⑱アッラーはあなた方のために、法と助言を含む印を解き明かす。確かにアッラーはあなた方の行い全部を知り、何も隠せないので全知である。かれは行いに基づく報奨を与える措置でも法規でも、英明な方である。

⑲信仰する人たちの間に禁じられた事柄、そしてその一部としてのこのみだらな行為のうわさが広まることを好む人たちには、現世では中傷に対する定められた懲罰が、そして来世でも厳しい煉獄がある。アッラーはかれらの嘘や僕のすることの結末をご存知である。かれらに何が最善かを知るが、ただあなた方は知らない。

⑳もしアッラーの恩恵や慈悲があなた方、虚偽にはまっていた人たちになく、アッラーがいつも親切で、慈悲深い方でなかったなら、あなた方を急ぎ懲罰されていただろう。

本諸節の功徳:

●偽信者はムスリム社会の基軸を、虚偽の非難を広めて崩壊させることに集中する。
●偽信者は信者たちを、自分の行いの方へ引きずり込もうとする。
●信者の母アーイシャ(アッラーの嘉しあれ)は、七天の上から無罪証明されて、誉を得ることとなった。
●噂に対しては、しっかりした態度が求められる。

۞ يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ لَا تَتَّبِعُواْ خُطُوَٰتِ ٱلشَّيۡطَٰنِۚ وَمَن يَتَّبِعۡ
خُطُوَٰتِ ٱلشَّيۡطَٰنِ فَإِنَّهُۥ يَأۡمُرُ بِٱلۡفَحۡشَآءِ وَٱلۡمُنكَرِۚ وَلَوۡلَا
فَضۡلُ ٱللَّهِ عَلَيۡكُمۡ وَرَحۡمَتُهُۥ مَا زَكَىٰ مِنكُم مِّنۡ أَحَدٍ أَبَدٗا وَلَٰكِنَّ
ٱللَّهَ يُزَكِّي مَن يَشَآءُۗ وَٱللَّهُ سَمِيعٌ عَلِيمٞ ٢١ وَلَا يَأۡتَلِ أُوْلُواْ ٱلۡفَضۡلِ
مِنكُمۡ وَٱلسَّعَةِ أَن يُؤۡتُوٓاْ أُوْلِي ٱلۡقُرۡبَىٰ وَٱلۡمَسَٰكِينَ وَٱلۡمُهَٰجِرِينَ
فِي سَبِيلِ ٱللَّهِۖ وَلۡيَعۡفُواْ وَلۡيَصۡفَحُوٓاْۗ أَلَا تُحِبُّونَ أَن يَغۡفِرَ ٱللَّهُ
لَكُمۡۚ وَٱللَّهُ غَفُورٞ رَّحِيمٌ ٢٢ إِنَّ ٱلَّذِينَ يَرۡمُونَ ٱلۡمُحۡصَنَٰتِ
ٱلۡغَٰفِلَٰتِ ٱلۡمُؤۡمِنَٰتِ لُعِنُواْ فِي ٱلدُّنۡيَا وَٱلۡأٓخِرَةِ وَلَهُمۡ عَذَابٌ
عَظِيمٞ ٢٣ يَوۡمَ تَشۡهَدُ عَلَيۡهِمۡ أَلۡسِنَتُهُمۡ وَأَيۡدِيهِمۡ وَأَرۡجُلُهُم بِمَا
كَانُواْ يَعۡمَلُونَ ٢٤ يَوۡمَئِذٖ يُوَفِّيهِمُ ٱللَّهُ دِينَهُمُ ٱلۡحَقَّ وَيَعۡلَمُونَ أَنَّ
ٱللَّهَ هُوَ ٱلۡحَقُّ ٱلۡمُبِينُ ٢٥ ٱلۡخَبِيثَٰتُ لِلۡخَبِيثِينَ وَٱلۡخَبِيثُونَ
لِلۡخَبِيثَٰتِۖ وَٱلطَّيِّبَٰتُ لِلطَّيِّبِينَ وَٱلطَّيِّبُونَ لِلطَّيِّبَٰتِۚ
أُوْلَٰٓئِكَ مُبَرَّءُونَ مِمَّا يَقُولُونَۖ لَهُم مَّغۡفِرَةٞ وَرِزۡقٞ كَرِيمٞ ٢٦ يَٰٓأَيُّهَا
ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ لَا تَدۡخُلُواْ بُيُوتًا غَيۡرَ بُيُوتِكُمۡ حَتَّىٰ تَسۡتَأۡنِسُواْ
وَتُسَلِّمُواْ عَلَىٰٓ أَهۡلِهَاۚ ذَٰلِكُمۡ خَيۡرٞ لَّكُمۡ لَعَلَّكُمۡ تَذَكَّرُونَ ٢٧

㉑信仰してアッラーの法に従う人たちよ、悪魔の歩みに従い虚偽を飾るような道を行ってはいけない。もしあなた方が悪魔の歩みに従うなら、かれは醜い言動と法が拒否することをあなた方に命じるだろう。もしアッラーの恩恵や慈悲があなた方になかったなら、あなた方は誰も改心しても清浄になれなかった。でも、アッラーはお望みの人を、その改心を受け入れて清められる。アッラーは全聴であなた方の言うことを聞き、かつあなた方の行いについて全知である。**かれ**から隠されるものはなく、あなた方の報奨もその行いにより決められる。

㉒あなた方の中で信仰に篤く、経済的にも恵まれた人たちは、その近親や困窮者やアッラーの道のため移住した人たちのために、罪を犯したからといって施さないと誓ってはいけない。かれらを見逃し、目をつぶってあげなさい。そうすることでアッラーが、あなた方を赦されることを望まないのか。真にアッラーはよく赦される方であり、慈悲深い方なのだから、**かれ**に従うのだ。この啓示が下されたのは、アブー・バクル・アルスィッディーク(アッラーの嘉しあれ)が、ミスタハが虚偽に加わったために支出しないと誓ったときであった。

㉓貞淑で純真で姦淫も知らない女性の信者を中傷する人たちは、現世でも来世でもアッラーに拒否される。かれらには、来世で重大な苦痛(懲罰)がある。

㉔その審判の日、かれらの舌は話してきた嘘を証言し、手と足はかれらが行なってきたことを立証して、その懲罰が下る。

㉕その日、かれらが受けるべき報いをすべてアッラーが与えると、かれらはアッラーこそが明らかな真実であることを知る。**かれ**の与えるあらゆる情報や約束、そして警告は、何の疑問もなく真実なのである。

㉖邪悪な女性、男性、そして言動は、邪悪なものにふさわしい。他方善良なそれらのものは、善良なものにふさわしい。これら善男善女たちは、かれら(邪悪な男女)がうわさすることとは無縁である。善男善女には、罪の赦しと楽園という気前のよい糧があるだろう。

恥部を見ることは章初めに言及された姦通に繋がるので、家に入る時には許しを得るように、視線が恥部に行かないようにと、アッラーは次のように言われた。
㉗信仰し法を順守する人たちよ、次のように言って家の住人の許可を得ないで、また挨拶しないで自宅以外の家に入ってはいけない。「平安あれ、入っても良いでしょうか。」それは急に入るよりもあなた方にとって良いことである。命じられたことを覚えておいて、それを実践するように。

本諸節の功徳:
●悪魔の誘惑とささやきは、すべて罪への招きであり、信者はそれから身を引くべきだ。
●改心と正しい行為へと導かれることはアッラーからのものであり、それらは僕からではない。
●赦し、寛大であることは、自らの罪を赦されることになる。
●貞淑な女性を中傷することは、大罪になる。
●入室の許可を得る決まりは、視線を守り、家の禁じられた場所を守るためである。

فَإِن لَّمْ تَجِدُوا۟ فِيهَآ أَحَدًا فَلَا تَدْخُلُوهَا حَتَّىٰ يُؤْذَنَ لَكُمْ ۖ
وَإِن قِيلَ لَكُمُ ٱرْجِعُوا۟ فَٱرْجِعُوا۟ ۖ هُوَ أَزْكَىٰ لَكُمْ ۚ وَٱللَّهُ بِمَا
تَعْمَلُونَ عَلِيمٌ ٢٨ لَّيْسَ عَلَيْكُمْ جُنَاحٌ أَن تَدْخُلُوا۟ بُيُوتًا
غَيْرَ مَسْكُونَةٍ فِيهَا مَتَٰعٌ لَّكُمْ ۚ وَٱللَّهُ يَعْلَمُ مَا تُبْدُونَ وَمَا
تَكْتُمُونَ ٢٩ قُل لِّلْمُؤْمِنِينَ يَغُضُّوا۟ مِنْ أَبْصَٰرِهِمْ وَيَحْفَظُوا۟
فُرُوجَهُمْ ۚ ذَٰلِكَ أَزْكَىٰ لَهُمْ ۗ إِنَّ ٱللَّهَ خَبِيرٌۢ بِمَا يَصْنَعُونَ ٣٠
وَقُل لِّلْمُؤْمِنَٰتِ يَغْضُضْنَ مِنْ أَبْصَٰرِهِنَّ وَيَحْفَظْنَ
فُرُوجَهُنَّ وَلَا يُبْدِينَ زِينَتَهُنَّ إِلَّا مَا ظَهَرَ مِنْهَا ۖ وَلْيَضْرِبْنَ
بِخُمُرِهِنَّ عَلَىٰ جُيُوبِهِنَّ ۖ وَلَا يُبْدِينَ زِينَتَهُنَّ إِلَّا لِبُعُولَتِهِنَّ
أَوْ ءَابَآئِهِنَّ أَوْ ءَابَآءِ بُعُولَتِهِنَّ أَوْ أَبْنَآئِهِنَّ أَوْ أَبْنَآءِ بُعُولَتِهِنَّ
أَوْ إِخْوَٰنِهِنَّ أَوْ بَنِىٓ إِخْوَٰنِهِنَّ أَوْ بَنِىٓ أَخَوَٰتِهِنَّ أَوْ نِسَآئِهِنَّ
أَوْ مَا مَلَكَتْ أَيْمَٰنُهُنَّ أَوِ ٱلتَّٰبِعِينَ غَيْرِ أُو۟لِى ٱلْإِرْبَةِ مِنَ
ٱلرِّجَالِ أَوِ ٱلطِّفْلِ ٱلَّذِينَ لَمْ يَظْهَرُوا۟ عَلَىٰ عَوْرَٰتِ ٱلنِّسَآءِ ۖ
وَلَا يَضْرِبْنَ بِأَرْجُلِهِنَّ لِيُعْلَمَ مَا يُخْفِينَ مِن زِينَتِهِنَّ ۚ وَتُوبُوٓا۟
إِلَى ٱللَّهِ جَمِيعًا أَيُّهَ ٱلْمُؤْمِنُونَ لَعَلَّكُمْ تُفْلِحُونَ ٣١

(28)たとえその家に誰もいなくても、許可を得るまであなた方はその中に入ってはいけない。もし帰るよう言われたときは、帰るのだ。それがより潔白なのである。アッラーは、あなた方が行なうことをすべてご存知であり、それによって報われるのである。

(29)ただし誰のためということもなく、公の建物で図書館や市場の中の店舗などであれば、許可を得ないでその建物に入っても、あなた方にとって罪ではない。アッラーは、あなた方が現わすことも隠すことも、その言動をご存知なのだ。何も隠し事はできず、それでアッラーは報われるのである。
　視線は姦通の前兆なので、アッラーは目線を伏せるため、次のように言われた。

(30)使徒よ、信仰する男たちにかれらの視線を制御して、見てはならない女性や他人の恥部を見ないようにと言え。また、違法な行為に陥らないよう、そして露出しないよう自らの恥部を守れと言うのだ。アッラーが違法とされたものを見ることを控えて恥部を守ることこそ、アッラーの御許ではかれらにとって一段と潔白なことである。アッラーはかれらが行うことを熟知しておられ、わからないことは何もなく、行いに応じて報いられる。

(31)信仰する女たちの視線が、見てはいけないと定められた恥部を見ないように言え。そして不節度から遠ざかり、その恥部を隠して守るようにと。衣服のように外に表われるのが当然で隠せないもの以外は、かの女たちの美を目立たせてはいけない。そして衣服の最上部の開いたところを隠し、髪、顔そして首を隠すように。
その隠された美は、自分の夫、父親、夫の父親、自分の息子たち、夫の息子たち、自分の兄弟、兄弟の息子たち、姉妹の息子たち、ムスリムであろうとそうでなかろうと信用のおける女たち、自分の右手が持つ男女の奴隷、性欲を持たない従者、または女性の体に意識をもたない子供を除いては、見せてはいけない。また、かの女たちが隠す美を知らせるため、かの女らの足を足首飾りで打ち鳴らしてはいけない。信仰する人たちよ、あなた方の視線などのために起こる罪から、皆アッラーへと悔い戻れ。そうすれば、あなた方は成功し、恐れていたことから救われるだろう。

本諸節の功徳:

●公的な建物には、許可なくして入れること。
●違法なものからは視線を低くする必要が、男女ともにあること。
●女性のヒジャーブの必要性。
●挑発するようなことは、控えるべきである。

وَأَنكِحُوا۟ ٱلْأَيَٰمَىٰ مِنكُمْ وَٱلصَّٰلِحِينَ مِنْ عِبَادِكُمْ وَإِمَآئِكُمْ ۚ إِن
يَكُونُوا۟ فُقَرَآءَ يُغْنِهِمُ ٱللَّهُ مِن فَضْلِهِۦ ۗ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٣٢
وَلْيَسْتَعْفِفِ ٱلَّذِينَ لَا يَجِدُونَ نِكَاحًا حَتَّىٰ يُغْنِيَهُمُ ٱللَّهُ مِن فَضْلِهِۦ ۗ
وَٱلَّذِينَ يَبْتَغُونَ ٱلْكِتَٰبَ مِمَّا مَلَكَتْ أَيْمَٰنُكُمْ فَكَاتِبُوهُمْ إِنْ
عَلِمْتُمْ فِيهِمْ خَيْرًا ۖ وَءَاتُوهُم مِّن مَّالِ ٱللَّهِ ٱلَّذِىٓ ءَاتَىٰكُمْ ۚ وَلَا تُكْرِهُوا۟
فَتَيَٰتِكُمْ عَلَى ٱلْبِغَآءِ إِنْ أَرَدْنَ تَحَصُّنًا لِّتَبْتَغُوا۟ عَرَضَ ٱلْحَيَوٰةِ
ٱلدُّنْيَا ۚ وَمَن يُكْرِههُّنَّ فَإِنَّ ٱللَّهَ مِنۢ بَعْدِ إِكْرَٰهِهِنَّ غَفُورٌ رَّحِيمٌ
٣٣ وَلَقَدْ أَنزَلْنَآ إِلَيْكُمْ ءَايَٰتٍ مُّبَيِّنَٰتٍ وَمَثَلًا مِّنَ ٱلَّذِينَ خَلَوْا۟
مِن قَبْلِكُمْ وَمَوْعِظَةً لِّلْمُتَّقِينَ ٣٤ ۞ ٱللَّهُ نُورُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ ۚ ربع الحزب ٣٦
مَثَلُ نُورِهِۦ كَمِشْكَوٰةٍ فِيهَا مِصْبَاحٌ ۖ ٱلْمِصْبَاحُ فِى زُجَاجَةٍ ۖ
ٱلزُّجَاجَةُ كَأَنَّهَا كَوْكَبٌ دُرِّىٌّ يُوقَدُ مِن شَجَرَةٍ مُّبَٰرَكَةٍ زَيْتُونَةٍ
لَّا شَرْقِيَّةٍ وَلَا غَرْبِيَّةٍ يَكَادُ زَيْتُهَا يُضِىٓءُ وَلَوْ لَمْ تَمْسَسْهُ نَارٌ ۚ
نُّورٌ عَلَىٰ نُورٍ ۗ يَهْدِى ٱللَّهُ لِنُورِهِۦ مَن يَشَآءُ ۚ وَيَضْرِبُ ٱللَّهُ ٱلْأَمْثَٰلَ
لِلنَّاسِ ۗ وَٱللَّهُ بِكُلِّ شَىْءٍ عَلِيمٌ ٣٥ فِى بُيُوتٍ أَذِنَ ٱللَّهُ أَن تُرْفَعَ
وَيُذْكَرَ فِيهَا ٱسْمُهُۥ يُسَبِّحُ لَهُۥ فِيهَا بِٱلْغُدُوِّ وَٱلْءَاصَالِ ٣٦

未婚であれば姦通が広まる恐れがあるので、アッラーは独身者の結婚を助けるように命じられた。

(32)あなた方信者の中で独身の男女を、またあなた方の男性の奴隷と女性の奴隷で信者である者を結婚させよ。もしかれらが貧しいなら、アッラーは**かれ**の広い恩恵によってかれらを裕福にされる。アッラーはだれの富も減らすことなく、裕福にされるお方。その恵みは広大にして、その僕のすべてをご存知である。

アッラーは未婚者を結婚させるように信者に命じられたが、未婚者に結婚するに必要なものがないときは、貞淑であるように求められて、次のように言われた。

(33)貧しくて結婚ができない人たちは、アッラーが**かれ**の恩恵によってかれらを富ませるまで、不倫を避けて操(みさお)を守らせよ。またあなた方の奴隷の中で、解放の支払いをする契約を求める人については、かれらの中に実行する能力と信仰を守る正しさを認めるなら、その契約を結んでやれ。そして、アッラーがあなた方に与えた財産から、かれらに支払額を軽減して支援を与えよ。また、アブドッラー・イブン・ウバイイがかれの二人の女奴隷が貞節を守り売春から遠ざかりたいと望んだのに無理に強いたように、かの女たちが貞節を守りたいと望むなら、その身体の一部によって財貨を求めるため、あなた方の女性の奴隷に売春を強制してはいけない。しかしかの女たちを誰かが強制しても、アッラーは強制された後に、よく赦される方、慈悲深い方。罪は強制した方にあり、された方にあるのではない。

(34)人々よ、確かに**われら**は虚偽から真理を明らかにする明瞭な啓示を下した。またあなた方以前に過ぎ去った信者や不信仰者の事例を示し、アッラーを畏れてその命令を守り禁止事項を避ける人たちへの教訓を啓示した。

(35)アッラーは、諸天と地の光であり、そこのすべての導きである。**かれ**の光を例えれば、ランプを置いた壁のくぼみのようなもの。ランプはガラスの中にあり、ガラスは真珠のように輝く星のよう。そのランプは祝福されたオリーブの木の油で灯されている。その木を朝も夕方も太陽から隠すものはない。その清さのためにその油は火がほとんど触れないのに光を放ち、触れるとするとどうなることか、思ってもみよ。ランプの光はガラスの上にあり、それは信者の心に導きが輝くときと同様である。アッラーは望みの人を、クルアーンに導かれる。そして事例を挙げて、互いの似ている点から、明らかにされる。アッラーは、すべてのことをご存知で、何事も隠し通せないのだ。

(36)アッラーは礼拝所が清潔で、不浄や汚れから守られるよう命じられ、そこにランプは灯される。礼拝所は高められるように、そして礼拝の呼びかけ、唱念、また礼拝を通じて、**かれ**の御名を念じるように命じられた。朝な夕な、その中で**かれ**の満悦を求めて礼拝するようにと。

本諸節の功徳:

●アッラーは奴隷の原因を限定し、解放の理由を広げられた。
●契約で支払をして奴隷解放をし、経済的に支援すべきである。それは、かれらが奴隷として社会の底流にとどまり、生活のために怪しいことに手を染めることがないようにするためである。
●信者の心は、天性により光り輝き、またアッラーの導きで光り輝く。
●礼拝所はアッラーの家であり、礼拝されるためにあり、それは物的精神的な不浄さから遠ざけられるべきである。
●アッラーの美称にある「光」は、その属性の一つである。

رِجَالٞ لَّا تُلۡهِيهِمۡ تِجَٰرَةٞ وَلَا بَيۡعٌ عَن ذِكۡرِ ٱللَّهِ وَإِقَامِ ٱلصَّلَوٰةِ
وَإِيتَآءِ ٱلزَّكَوٰةِ يَخَافُونَ يَوۡمٗا تَتَقَلَّبُ فِيهِ ٱلۡقُلُوبُ وَٱلۡأَبۡصَٰرُ ٣٧
لِيَجۡزِيَهُمُ ٱللَّهُ أَحۡسَنَ مَا عَمِلُواْ وَيَزِيدَهُم مِّن فَضۡلِهِۦۗ وَٱللَّهُ
يَرۡزُقُ مَن يَشَآءُ بِغَيۡرِ حِسَابٖ ٣٨ وَٱلَّذِينَ كَفَرُوٓاْ أَعۡمَٰلُهُمۡ كَسَرَابِۭ
بِقِيعَةٖ يَحۡسَبُهُ ٱلظَّمۡـَٔانُ مَآءً حَتَّىٰٓ إِذَا جَآءَهُۥ لَمۡ يَجِدۡهُ شَيۡـٔٗا
وَوَجَدَ ٱللَّهَ عِندَهُۥ فَوَفَّىٰهُ حِسَابَهُۥۗ وَٱللَّهُ سَرِيعُ ٱلۡحِسَابِ ٣٩
أَوۡ كَظُلُمَٰتٖ فِي بَحۡرٖ لُّجِّيّٖ يَغۡشَىٰهُ مَوۡجٞ مِّن فَوۡقِهِۦ مَوۡجٞ مِّن فَوۡقِهِۦ
سَحَابٞۚ ظُلُمَٰتُۢ بَعۡضُهَا فَوۡقَ بَعۡضٍ إِذَآ أَخۡرَجَ يَدَهُۥ لَمۡ يَكَدۡ
يَرَىٰهَاۗ وَمَن لَّمۡ يَجۡعَلِ ٱللَّهُ لَهُۥ نُورٗا فَمَا لَهُۥ مِن نُّورٍ ٤٠ أَلَمۡ تَرَ أَنَّ
ٱللَّهَ يُسَبِّحُ لَهُۥ مَن فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ وَٱلطَّيۡرُ صَٰٓفَّٰتٖۖ كُلّٞ
قَدۡ عَلِمَ صَلَاتَهُۥ وَتَسۡبِيحَهُۥۗ وَٱللَّهُ عَلِيمُۢ بِمَا يَفۡعَلُونَ ٤١ وَلِلَّهِ مُلۡكُ
ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِۖ وَإِلَى ٱللَّهِ ٱلۡمَصِيرُ ٤٢ أَلَمۡ تَرَ أَنَّ ٱللَّهَ يُزۡجِي
سَحَابٗا ثُمَّ يُؤَلِّفُ بَيۡنَهُۥ ثُمَّ يَجۡعَلُهُۥ رُكَامٗا فَتَرَى ٱلۡوَدۡقَ يَخۡرُجُ مِنۡ
خِلَٰلِهِۦ وَيُنَزِّلُ مِنَ ٱلسَّمَآءِ مِن جِبَالٖ فِيهَا مِنۢ بَرَدٖ فَيُصِيبُ بِهِۦ مَن يَشَآءُ
وَيَصۡرِفُهُۥ عَن مَّن يَشَآءُۖ يَكَادُ سَنَا بَرۡقِهِۦ يَذۡهَبُ بِٱلۡأَبۡصَٰرِ ٤٣

37 また命じられたのは、交易や商売のために、アッラーを念じることや、礼拝の務めを守ることや、定めの施しをすることについて、惑わされてはならないということ。その審判の日、かれらは恐れをなし、心は懲罰から救われるのかどうか戸惑い、目は不安でさまよう。

38 アッラーはかれらが行なった最善のことについて報い、また**かれ**の恩恵によって報奨を増やす。アッラーは、誰ということなくお望みの人に、その行いにより、いやそれにも増して潤沢に糧を与える。

39 一方、不信心な人たちの行いに報奨はなく、それは砂漠の中の蜃気楼のようなもので、喉が渇いた人はそれを水と思うのだ。同様に不信仰な人は、その行いは報われると思うが、死んで復活されれば、何も報奨はない。そこで見出すのは、かれの行為を十分計算されるアッラーだけである。アッラーは、清算に迅速なのだ。

40 またかれらの行為は、深海の暗黒のようなもので、波が覆い、その上に波があり、その上を導くための星を覆う雲がある。暗黒の上に暗黒が重なっている。かれが手を伸ばしても、かれはその手をほとんど見ることができない。不信仰な者はこのようであり、無知、疑念、混乱があり、そしてその心はそれらに覆われている。誰であれアッラーが過ちからの導きとクルアーンに関する知識を与えない人は、それ以外の書物を得ても導かれることはなく、また啓蒙されることはない。

41 預言者よ、あなたはアッラーの創造である諸天と地の中のものすべてがアッラーを賛美することを、知らないのか。一群をなして飛ぶ鳥が、アッラーを賛美するのを見ないのか。アッラーは人間のように礼拝する者の礼拝を知っておられ、また鳥たちのように賛美するものの賛美を知っておられる。アッラーはかれらの行なうことを、すべてご存知で、どのような行いも隠されるものはないのだ。

42 諸天と地の大権はアッラーに属し、アッラーだけに精算と報奨のための帰り所はある。

43 アッラーが雲を送り出し、それらの一部を合わせて重なる積雲にされることを、預言者よ、あなたは知らないのか。そして雲から雨が降り出し、それは山のような雲の間で空から降ってきて、雹(ひょう)を降らせる。**かれ**は僕の内、お望みの人をそれで撃ち、お望みの人をそれから守る。稲妻の閃きは、ほとんど視覚を奪うばかりである。

本諸節の功徳:

●信者は、現世の諸事と来世のそれのバランスをとる必要がある。
●不信仰者の行いは、信仰の要件を満たさないので、無効となる。
●不信仰者は、通常従順でアッラーを称賛する他のすべての被創造物に対して、目立って不服従である。
●降雨のすべての段階は、アッラーの創造と命令によるものである。

يُقَلِّبُ ٱللَّهُ ٱلَّيۡلَ وَٱلنَّهَارَۚ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَعِبۡرَةٗ لِّأُوْلِي ٱلۡأَبۡصَٰرِ ٤٤
وَٱللَّهُ خَلَقَ كُلَّ دَآبَّةٖ مِّن مَّآءٖۖ فَمِنۡهُم مَّن يَمۡشِي عَلَىٰ بَطۡنِهِۦ وَمِنۡهُم مَّن
يَمۡشِي عَلَىٰ رِجۡلَيۡنِ وَمِنۡهُم مَّن يَمۡشِي عَلَىٰٓ أَرۡبَعٖۚ يَخۡلُقُ ٱللَّهُ مَا يَشَآءُۚ
إِنَّ ٱللَّهَ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٞ ٤٥ لَّقَدۡ أَنزَلۡنَآ ءَايَٰتٖ مُّبَيِّنَٰتٖۚ
وَٱللَّهُ يَهۡدِي مَن يَشَآءُ إِلَىٰ صِرَٰطٖ مُّسۡتَقِيمٖ ٤٦ وَيَقُولُونَ
ءَامَنَّا بِٱللَّهِ وَبِٱلرَّسُولِ وَأَطَعۡنَا ثُمَّ يَتَوَلَّىٰ فَرِيقٞ مِّنۡهُم مِّنۢ بَعۡدِ
ذَٰلِكَۚ وَمَآ أُوْلَٰٓئِكَ بِٱلۡمُؤۡمِنِينَ ٤٧ وَإِذَا دُعُوٓاْ إِلَى ٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦ
لِيَحۡكُمَ بَيۡنَهُمۡ إِذَا فَرِيقٞ مِّنۡهُم مُّعۡرِضُونَ ٤٨ وَإِن يَكُن لَّهُمُ ٱلۡحَقُّ
يَأۡتُوٓاْ إِلَيۡهِ مُذۡعِنِينَ ٤٩ أَفِي قُلُوبِهِم مَّرَضٌ أَمِ ٱرۡتَابُوٓاْ أَمۡ يَخَافُونَ
أَن يَحِيفَ ٱللَّهُ عَلَيۡهِمۡ وَرَسُولُهُۥۚ بَلۡ أُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلظَّٰلِمُونَ ٥٠ إِنَّمَا
كَانَ قَوۡلَ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ إِذَا دُعُوٓاْ إِلَى ٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦ لِيَحۡكُمَ بَيۡنَهُمۡ أَن
يَقُولُواْ سَمِعۡنَا وَأَطَعۡنَاۚ وَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡمُفۡلِحُونَ ٥١ وَمَن
يُطِعِ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥ وَيَخۡشَ ٱللَّهَ وَيَتَّقۡهِ فَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡفَآئِزُونَ
نصف الحزب ٣٦ ٥٢ ۞ وَأَقۡسَمُواْ بِٱللَّهِ جَهۡدَ أَيۡمَٰنِهِمۡ لَئِنۡ أَمَرۡتَهُمۡ لَيَخۡرُجُنَّۖ قُل
لَّا تُقۡسِمُواْۖ طَاعَةٞ مَّعۡرُوفَةٌۚ إِنَّ ٱللَّهَ خَبِيرُۢ بِمَا تَعۡمَلُونَ ٥٣

(44)アッラーは夜と昼の長短や往来を、次々に交替させる。確かに、これらの中には、アッラーの力と唯一であることについて、見る目を持つ人たちへの教訓となる印がある。

(45)また、アッラーは地上を歩くすべての生き物を、一滴の精液から創られた。それらのあるものは蛇のように腹ばいで歩き、あるものは人や鳥のように2足で歩き、あるものは家畜のように4足で歩く。アッラーは上に言及されたものも、されなかったものも、いずれにしてもお望みのものを創られる。確かにアッラーは万事に対して全能で、何事もできないことはない。

(46)**われら**は、真理の道を指し示す数々の明瞭な啓示の言葉をムハンマド(アッラーの祝福と平安を)に下した。アッラーはお望みの人を、逸脱することのない正しい道に導き、それはいずれ楽園へと導くのである。

(47)かれら偽信者は言う、わたしたちはアッラーと使徒(ムハンマド)を信じて服従すると。しかしその後、かれらの一部は背き去る。かれらは信じて従うと言ってから、実際は従わずに、アッラーの道のための闘い(ジハード)なども実行しない。というのも、これらのアッラーと預言者に従わない人々は、口上にかかわらず真の信者ではないからだ。

(48)そして、かれらの間を裁くために、かれらがアッラーと使徒の前に呼び出されると、見よ。かれらは偽の信仰のために、預言者の示す裁きを拒否する。

(49)しかしもしかれらに権利が属し、裁きがかれらに好都合であるなら、素直に謙虚に、かれ(ムハンマド)のところにやって来るだろう。

(50)かれらの心には治ることのない病が宿っているのか、またはかれがアッラーの預言者であることについて疑いを抱いているのか、またはアッラーと**かれ**の使徒が、かれらを審判で不公平に扱うかもしれないと恐れるのか。いいや、そのいずれでもなく、むしろかれらの心に欠陥があるからこそ、アッラーの裁決から遠ざかり、拒否の姿勢を示しているのである。

以上の偽信者の話の後、アッラーと預言者の裁決に満足する信者の話となる。アッラーは、言われた。
(51)信者たちについては、かれらの間を裁くためにかれらがアッラーと使徒の前に呼び出されると、わたしたちは聞いて従いましたと言うだけ。このような性格の人たちこそ、現世と来世において成功する者なのである。

(52)アッラーと**かれ**の使徒に服従して、罪の結果についてアッラーを恐れ、その命令を実践し、禁止を遵守することでアッラーの懲罰を避ける人、このような人たちこそ現世と来世において勝利者なのである。

(53)一方かれら偽信者は、一番強くてうそぶいた誓いをアッラーに対してするもので、もし出征(ジハード)を命じられたら、出て行くことをアッラーにかけて必死になって誓う。言え。お前たちの嘘は知られており、誓いは意味がなく、服従するというのも口先だけだ。確かにアッラーはあなた方が行なうことを、熟知しておられる。何事も隠せず、どれほどしてもそれは同じことだ。

本諸節の功徳:
●創造されたものが多種類であるのは、アッラーの能力の証である。
●偽信者の特徴の一つは、自分の利益にならない限りアッラーの定めに従わないことである。また疑いと心の病を持ち、アッラーについて、悪く考えることなども、その特徴である。
●アッラーと預言者に従い、アッラーを畏れることは、(現世と来世の)両世界で成功するための方途である。
●虚偽の誓いは、偽信者の一般的な行為である。

قُلۡ أَطِيعُواْ ٱللَّهَ وَأَطِيعُواْ ٱلرَّسُولَۖ فَإِن تَوَلَّوۡاْ فَإِنَّمَا عَلَيۡهِ مَا حُمِّلَ
وَعَلَيۡكُم مَّا حُمِّلۡتُمۡۖ وَإِن تُطِيعُوهُ تَهۡتَدُواْۚ وَمَا عَلَى ٱلرَّسُولِ
إِلَّا ٱلۡبَلَٰغُ ٱلۡمُبِينُ ٥٤ وَعَدَ ٱللَّهُ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ مِنكُمۡ وَعَمِلُواْ
ٱلصَّٰلِحَٰتِ لَيَسۡتَخۡلِفَنَّهُمۡ فِي ٱلۡأَرۡضِ كَمَا ٱسۡتَخۡلَفَ
ٱلَّذِينَ مِن قَبۡلِهِمۡ وَلَيُمَكِّنَنَّ لَهُمۡ دِينَهُمُ ٱلَّذِي ٱرۡتَضَىٰ
لَهُمۡ وَلَيُبَدِّلَنَّهُم مِّنۢ بَعۡدِ خَوۡفِهِمۡ أَمۡنٗاۚ يَعۡبُدُونَنِي لَا يُشۡرِكُونَ
بِي شَيۡـٔٗاۚ وَمَن كَفَرَ بَعۡدَ ذَٰلِكَ فَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡفَٰسِقُونَ ٥٥
وَأَقِيمُواْ ٱلصَّلَوٰةَ وَءَاتُواْ ٱلزَّكَوٰةَ وَأَطِيعُواْ ٱلرَّسُولَ لَعَلَّكُمۡ
تُرۡحَمُونَ ٥٦ لَا تَحۡسَبَنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ مُعۡجِزِينَ فِي ٱلۡأَرۡضِۚ
وَمَأۡوَىٰهُمُ ٱلنَّارُۖ وَلَبِئۡسَ ٱلۡمَصِيرُ ٥٧ يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ
لِيَسۡتَـٔۡذِنكُمُ ٱلَّذِينَ مَلَكَتۡ أَيۡمَٰنُكُمۡ وَٱلَّذِينَ لَمۡ يَبۡلُغُواْ ٱلۡحُلُمَ مِنكُمۡ
ثَلَٰثَ مَرَّٰتٖۚ مِّن قَبۡلِ صَلَوٰةِ ٱلۡفَجۡرِ وَحِينَ تَضَعُونَ ثِيَابَكُم مِّنَ
ٱلظَّهِيرَةِ وَمِنۢ بَعۡدِ صَلَوٰةِ ٱلۡعِشَآءِۚ ثَلَٰثُ عَوۡرَٰتٖ لَّكُمۡۚ لَيۡسَ عَلَيۡكُمۡ
وَلَا عَلَيۡهِمۡ جُنَاحُۢ بَعۡدَهُنَّۚ طَوَّٰفُونَ عَلَيۡكُم بَعۡضُكُمۡ عَلَىٰ بَعۡضٖۚ
كَذَٰلِكَ يُبَيِّنُ ٱللَّهُ لَكُمُ ٱلۡأٓيَٰتِۗ وَٱللَّهُ عَلِيمٌ حَكِيمٞ ٥٨

54 使徒よ、偽信者たちに言え。アッラーに、そして使徒に精神的肉体的に従うのだ。もしあなた方が命じられたようにしないで背き去っても、かれにはメッセージを伝えるというかれに負わされた務めがあり、あなた方にはそれを実践するというあなた方に負わされた務めがある。それで、もしあなた方がかれがするようにということをして、するなと禁じることをしないならば、真実に正しく導かれるだろう。使徒の責務は、ただ明瞭に啓示を伝えることだけであり、あなた方を強制することではない。

55 アッラーは、あなた方の中で信仰して善行に勤しむ人たちに約束した。かれらを敵から守り、以前の人々にしたように、この大地の支配をかれらに継がせることを。そして、かれらのために選んだ宗教であるイスラームを確立し、支配的にすることも。アッラー以外に崇拝しないならば、かれらの恐怖心を安心感に変えるであろう。こういった恵みにかかわらず感謝しない人は、アッラーに不服従な者である。

56 それで礼拝の務めを完全に守り、定めの施しをして、何であれ使徒に従い、禁じられたことはすべて避けるように。そうすればあなた方はアッラーのお慈悲を授かるだろう。

57 使徒よ、あなたは不信心の人たちが、アッラーの懲罰を逃げられると考えてはいけない。かれらの最後の日の住まいは、地獄の火で、それは何と悪い住まいか。

以前にアッラーは自由な成人が家や部屋に入る許可を得る規定を述べられたが、以下では奴隷、自由な未成年や子供のその方法を述べられる。
58 信仰して法規に従う人たちよ、あなた方の自由な未成年の子供たち、そして男女の奴隷は、三つの場合において、あなた方の許可を求めさせよ。つまり早朝の礼拝の前で夜の衣服を昼のそれに着替えているとき、昼中の休憩の衣服に着替えているとき、また夜の礼拝の後で昼から夜の衣服に着替えているとき。これらの三度は、あなた方のプライバシーのためである。これらのときは許可なしで、あなた方の部屋に入るべきではない。しかしそれ以外のときには、許可を得ないで互いに行き来しても、あなた方にも、かれらにも罪はない。互いに行き来しなければならないのが常であり、許可を一々必要とするのは非常に不便である。このようにアッラーは、入室の規則を定められたと同様に、あなた方のために印を解き明かされる。アッラーは人が必要とすることに全知であり、定めた規則に英明である。

本諸節の功徳:

●使徒(アッラーの祝福と平安あれ)に従うことは、正しい道にあるという証である。
●唱道する人の責務は呼びかけることであるが、その結果はアッラーの手中にある。
●信仰と正しい行いは、地上で権威を獲得し、平安を得る方法となる。
●人のプライバシーが失われる時間帯の、召使いや子供の行動には規律が必要である。

وَإِذَا بَلَغَ ٱلْأَطْفَٰلُ مِنكُمُ ٱلْحُلُمَ فَلْيَسْتَـْٔذِنُوا۟ كَمَا
ٱسْتَـْٔذَنَ ٱلَّذِينَ مِن قَبْلِهِمْ ۚ كَذَٰلِكَ يُبَيِّنُ ٱللَّهُ لَكُمْ
ءَايَٰتِهِۦ ۗ وَٱللَّهُ عَلِيمٌ حَكِيمٌ ﴿٥٩﴾ وَٱلْقَوَٰعِدُ مِنَ ٱلنِّسَآءِ
ٱلَّٰتِى لَا يَرْجُونَ نِكَاحًا فَلَيْسَ عَلَيْهِنَّ جُنَاحٌ أَن يَضَعْنَ
ثِيَابَهُنَّ غَيْرَ مُتَبَرِّجَٰتٍۭ بِزِينَةٍ ۖ وَأَن يَسْتَعْفِفْنَ خَيْرٌ
لَّهُنَّ ۗ وَٱللَّهُ سَمِيعٌ عَلِيمٌ ﴿٦٠﴾ لَّيْسَ عَلَى ٱلْأَعْمَىٰ حَرَجٌ وَلَا
عَلَى ٱلْأَعْرَجِ حَرَجٌ وَلَا عَلَى ٱلْمَرِيضِ حَرَجٌ وَلَا عَلَىٰٓ أَنفُسِكُمْ
أَن تَأْكُلُوا۟ مِنۢ بُيُوتِكُمْ أَوْ بُيُوتِ ءَابَآئِكُمْ أَوْ بُيُوتِ
أُمَّهَٰتِكُمْ أَوْ بُيُوتِ إِخْوَٰنِكُمْ أَوْ بُيُوتِ أَخَوَٰتِكُمْ
أَوْ بُيُوتِ أَعْمَٰمِكُمْ أَوْ بُيُوتِ عَمَّٰتِكُمْ أَوْ بُيُوتِ
أَخْوَٰلِكُمْ أَوْ بُيُوتِ خَٰلَٰتِكُمْ أَوْ مَا مَلَكْتُم
مَّفَاتِحَهُۥٓ أَوْ صَدِيقِكُمْ ۚ لَيْسَ عَلَيْكُمْ جُنَاحٌ أَن
تَأْكُلُوا۟ جَمِيعًا أَوْ أَشْتَاتًا ۚ فَإِذَا دَخَلْتُم بُيُوتًا فَسَلِّمُوا۟
عَلَىٰٓ أَنفُسِكُمْ تَحِيَّةً مِّنْ عِندِ ٱللَّهِ مُبَٰرَكَةً طَيِّبَةً ۚ كَذَٰلِكَ
يُبَيِّنُ ٱللَّهُ لَكُمُ ٱلْءَايَٰتِ لَعَلَّكُمْ تَعْقِلُونَ ﴿٦١﴾

(59)あなた方の子供たちが成熟したときは、大人について述べたように、入室の許可を求めさせよ。このようにアッラーはあなた方のために印を解き明かす。アッラーは僕の必要とすることを全知であり、かつ定める法について英明な方である。

(60)閉経後で出産せず、結婚も望まない女性は、隠すことが求められた美しさを露出しない限り、外衣や顔の覆いを脱いでも罪はなく、責められることはない。でもそれらを着用して、隠し貞節にするのがかの女らのために良い。アッラーは何でも聞いておられ、(**かれ**からは)何も隠せず、すべてに報われる。

(61)アッラーの道に従うジハードができなくても、盲人や足の身障者や病人には責めはない。信者よ、次のところで食べても罪はない。自分の家、自分の父方の家、自分の母方の家、自分の兄弟の家、自分の姉妹の家、自分の父方のおじの家、自分の父方のおばの家、自分の母方のおじの家、自分の母方のおばの家、そして信頼されて任せられている家、つまり庭師のような場合である。あなた方の友人の家でも、そうすることで喜ばせるので、一緒に食べるのは問題ない。あなた方は一緒に、または一人だけで食べても責められることはない。でも家に入るときは、アッラーから祝福された善い挨拶の言葉で互いに挨拶せよ。あるいは、中に誰もいないときには、自分に対して、「われわれと敬虔なアッラーの僕に平安あれ」と挨拶せよ。これはアッラーが定められたものであるが、それは愛と好感をもたらすからで、またそれは聞いて心地よいからである。このように、アッラーはあなた方のために印を明瞭に解き明かす。そこにあるように、あなた方が実行するように。

本諸節の功徳:

●高齢の女性がいくつかの衣服を着用する必要がないことは、疑いないところだ。
●宗教において用心深くあるのは、アッラーを畏れる者の特徴である。
●正直な言い訳は、負担軽減の理由となりうる。
●ムスリムの共同体は、共同責任、協力、そして同胞心に満ちたものである。

إِنَّمَا ٱلْمُؤْمِنُونَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ بِٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦ وَإِذَا كَانُوا۟ مَعَهُۥ
عَلَىٰٓ أَمْرٍ جَامِعٍ لَّمْ يَذْهَبُوا۟ حَتَّىٰ يَسْتَـْٔذِنُوهُ ۚ إِنَّ ٱلَّذِينَ يَسْتَـْٔذِنُونَكَ
أُو۟لَـٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ يُؤْمِنُونَ بِٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦ ۚ فَإِذَا ٱسْتَـْٔذَنُوكَ
لِبَعْضِ شَأْنِهِمْ فَأْذَن لِّمَن شِئْتَ مِنْهُمْ وَٱسْتَغْفِرْ لَهُمُ
ٱللَّهَ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ٦٢ لَّا تَجْعَلُوا۟ دُعَآءَ ٱلرَّسُولِ
بَيْنَكُمْ كَدُعَآءِ بَعْضِكُم بَعْضًا ۚ قَدْ يَعْلَمُ ٱللَّهُ ٱلَّذِينَ
يَتَسَلَّلُونَ مِنكُمْ لِوَاذًا ۚ فَلْيَحْذَرِ ٱلَّذِينَ يُخَالِفُونَ عَنْ
أَمْرِهِۦٓ أَن تُصِيبَهُمْ فِتْنَةٌ أَوْ يُصِيبَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ٦٣ أَلَآ إِنَّ
لِلَّهِ مَا فِى ٱلسَّمَـٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ ۖ قَدْ يَعْلَمُ مَآ أَنتُمْ عَلَيْهِ وَيَوْمَ
يُرْجَعُونَ إِلَيْهِ فَيُنَبِّئُهُم بِمَا عَمِلُوا۟ ۗ وَٱللَّهُ بِكُلِّ شَىْءٍ عَلِيمٌۢ ٦٤

آياتها ٧٧　سُورَةُ الفُرْقَانِ　ترتيبها ٢٥

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَـٰنِ ٱلرَّحِيمِ

ثلاثة أرباع الحزب ٣٦
تَبَارَكَ ٱلَّذِى نَزَّلَ ٱلْفُرْقَانَ عَلَىٰ عَبْدِهِۦ لِيَكُونَ لِلْعَـٰلَمِينَ نَذِيرًا
١ ٱلَّذِى لَهُۥ مُلْكُ ٱلسَّمَـٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ وَلَمْ يَتَّخِذْ وَلَدًا وَلَمْ يَكُن
لَّهُۥ شَرِيكٌ فِى ٱلْمُلْكِ وَخَلَقَ كُلَّ شَىْءٍ فَقَدَّرَهُۥ تَقْدِيرًا ٢

入室の挨拶に続いて、アッラーは退去する際の挨拶について言われる。
(62)真の信者とは、アッラーと**かれ**の使徒を信じ、かれらがムスリムに関する用事で使徒(アッラーの祝福と平安あれ)に集まるように言われたときは、かれの許可を得るまでは立ち去らない人たちである。使徒よ、実に立ち去る前にあなたに許しを求めた人こそは、アッラーとその使徒を信じる人たちである。かれらが大切な自分の用事で許可を求めたときは、あなたが望む人に許可を与え、かれらのためにアッラーの赦しを請え。確かにアッラーは僕で改心する人の罪をよく赦される方で、慈悲深い方である。

(63)信者たちよ、あなた方は使徒への呼びかけを、あなた方の互いの呼びかけのようにみなして、その名前で「ムハンマドよ」とか、その父親の名前で「アブドッラーの息子よ」などと呼んではならない。「アッラーの使徒よ」または「アッラーの預言者よ」と呼びかけるように。また何かあってかれが招集するときには、あなた方の間のように小さいことで集められるのではないから、速やかに応じるようにしなければいけない。アッラーはあなた方の中で、こそこそと抜け出す人を知っている。だから、かれの命令に反する人には試練が襲うか、または耐え難い厳しい苦痛があることを恐れるべきである。

(64)確かに、諸天と地のすべてはその創造、所有、采配においてアッラーのものであることを知れ。人々よ、アッラーはあなた方の状態を知り、何も隠せず、復活の後に**かれ**の御元にかれらが帰される日、かれらが現世で行なったことをかれらに知らせる。アッラーはすべてのことをご存知で、諸天と地上のことで隠しおおせるものはない。

25. 識別章(アル・フルカーン)

マッカ啓示

本章の趣旨:
多神教徒の度を越した反抗の後の、使徒(アッラーの祝福と平安を)の勝利。

説明:
(1)アッラーに称賛あれ。**かれ**こそは、その僕で使徒であるムハンマドに、真実と虚偽の識別のための基準としてクルアーンを啓示された。そしてかれは、人間とジンへの使徒であり、アッラーの懲罰に対する警告者である。

(2)諸天と地の大権は、**かれ**のものである。**かれ**は子をもうけず、またその大権の共同者もなく、**かれ**はその知識と完璧な知恵により、すべてのものを適切に計量して創造された。

本諸節の功徳:
●イスラームは組織と礼儀の教えであり、礼儀を守ることには恵みと善いことがある。
●アッラーの使徒(アッラーの祝福と平安あれ)の立場には、通常より敬意と尊敬を持つべきである。
●預言者(アッラーの祝福と平安あれ)の慣行に反することには、不幸がある。
●アッラーの支配と知識は、すべてを網羅すること。

وَٱتَّخَذُواْ مِن دُونِهِۦٓ ءَالِهَةٗ لَّا يَخۡلُقُونَ شَيۡـٔٗا وَهُمۡ يُخۡلَقُونَ
وَلَا يَمۡلِكُونَ لِأَنفُسِهِمۡ ضَرّٗا وَلَا نَفۡعٗا وَلَا يَمۡلِكُونَ مَوۡتٗا
وَلَا حَيَوٰةٗ وَلَا نُشُورٗا ٣ وَقَالَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوٓاْ إِنۡ هَٰذَآ إِلَّآ
إِفۡكٌ ٱفۡتَرَىٰهُ وَأَعَانَهُۥ عَلَيۡهِ قَوۡمٌ ءَاخَرُونَۖ فَقَدۡ جَآءُو ظُلۡمٗا
وَزُورٗا ٤ وَقَالُوٓاْ أَسَٰطِيرُ ٱلۡأَوَّلِينَ ٱكۡتَتَبَهَا فَهِيَ تُمۡلَىٰ
عَلَيۡهِ بُكۡرَةٗ وَأَصِيلٗا ٥ قُلۡ أَنزَلَهُ ٱلَّذِي يَعۡلَمُ ٱلسِّرَّ
فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِۚ إِنَّهُۥ كَانَ غَفُورٗا رَّحِيمٗا ٦
وَقَالُواْ مَالِ هَٰذَا ٱلرَّسُولِ يَأۡكُلُ ٱلطَّعَامَ وَيَمۡشِي فِي
ٱلۡأَسۡوَاقِ لَوۡلَآ أُنزِلَ إِلَيۡهِ مَلَكٞ فَيَكُونَ مَعَهُۥ نَذِيرًا ٧
أَوۡ يُلۡقَىٰٓ إِلَيۡهِ كَنزٌ أَوۡ تَكُونُ لَهُۥ جَنَّةٞ يَأۡكُلُ مِنۡهَاۚ وَقَالَ
ٱلظَّٰلِمُونَ إِن تَتَّبِعُونَ إِلَّا رَجُلٗا مَّسۡحُورًا ٨ ٱنظُرۡ
كَيۡفَ ضَرَبُواْ لَكَ ٱلۡأَمۡثَٰلَ فَضَلُّواْ فَلَا يَسۡتَطِيعُونَ
سَبِيلٗا ٩ تَبَارَكَ ٱلَّذِيٓ إِن شَآءَ جَعَلَ لَكَ خَيۡرٗا مِّن ذَٰلِكَ
جَنَّٰتٖ تَجۡرِي مِن تَحۡتِهَا ٱلۡأَنۡهَٰرُ وَيَجۡعَل لَّكَ قُصُورَۢا ١٠ بَلۡ
كَذَّبُواْ بِٱلسَّاعَةِۖ وَأَعۡتَدۡنَا لِمَن كَذَّبَ بِٱلسَّاعَةِ سَعِيرًا ١١

3 しかしマッカの多神教徒は、アッラーの他に神々を奉る。その神々は大小の何も創らず、かれら自らが創られたのであり、事実無からアッラーがそれらを創造されたのだ。また自らを害することも益することもできない。さらに、かれらには死も生も、死者の墓からの復活も不可能だ。

アッラーは同列者を配していることに注意喚起された後、啓典と使徒へのかれらの態度について述べられた。

4 アッラーと使徒に不信心な人たちは、こう言う。クルアーンは嘘にすぎない、ムハンマドが捏造して、不敬にもそれをアッラーのものと言っているだけなのだ。他の人々がそれを手伝ったと。しかし本当は、かれら不信仰者が不正と虚偽をもたらしたのであり、クルアーンはアッラーのお言葉である。人間やジンにそのようなことはできない。

5 またかれらは言う。ムハンマドが昔の人々の空虚な物語を書き取り、朝な夕なに、かれにそれが口述されたのだと。

6 使徒よ、これらの拒否する人たちに言え。諸天と地のすべてを知るアッラーがそれを啓示した。あなた方が考えるように、捏造されたのではない。確かに、**かれ**は改心する者をよく赦される方で慈悲深い方なのだ。

7 また預言者を拒否した、かれらは言う。この使徒はどうしたことだ、普通の人と同じものを食べたり、生活のために市場を歩いたりしているのに。なぜかれに天使が遣わされ、かれが真実であると証明し、かれを助けないのか。

8 または、かれには天からの財宝が授けられないのか。またかれには、生活のために市場を歩き回らなくて済むように、自由に食べる果樹園がないのかと。不正の人たちは言う。あなた方は使徒ではなくて、頭が魔術にかかった男に従っているに過ぎないのだと。

9 使徒よ、かれら不信仰者があなたをどれほど嘘で固めているかを見よ。魔術師だ、占い師だ、あるいは気違いだという。そうして真実から遠ざかったのだ。かれらは迷い去ってしまったので、道を見出すことができず、あなたの真実であることや正直さが確かめられない。

10 **かれ**に称賛あれ。もし**かれ**が望めば、かれらが考案するものより優れたものを、つまり川が宮殿の下を流れる楽園や果実を自由に食べられる樹木、あるいはあなたの住まいとしての豪華な宮殿をあなた(ムハンマド)に与えることができる。

11 ところが、かれらの言葉は真実や証拠を求めているのではない。結局かれらは、審判の時を嘘呼ばわりしたのだ。そして**われら**はその時を嘘呼ばわりする人に、燃え盛る火を用意した。

本諸節の功徳:

●アッラーは創造され、益を与え、生命と死を与えられる。しかし偶像は何もできない。
●アッラーが赦され慈悲を垂れるという特性を確認。
●人が使徒を拒否することは、使徒にまつわる必然ではない。
●預言者(アッラーの祝福と平安を)の謙虚さの証左として、人々と同じ生活をしていたことがある。

إِذَا رَأَتْهُم مِّن مَّكَانٍ بَعِيدٍ سَمِعُوا لَهَا تَغَيُّظًا وَزَفِيرًا ١٢
وَإِذَا أُلْقُوا مِنْهَا مَكَانًا ضَيِّقًا مُّقَرَّنِينَ دَعَوْا هُنَالِكَ ثُبُورًا
١٣ لَّا تَدْعُوا الْيَوْمَ ثُبُورًا وَاحِدًا وَادْعُوا ثُبُورًا كَثِيرًا ١٤
قُلْ أَذَٰلِكَ خَيْرٌ أَمْ جَنَّةُ الْخُلْدِ الَّتِي وُعِدَ الْمُتَّقُونَ ۚ كَانَتْ
لَهُمْ جَزَاءً وَمَصِيرًا ١٥ لَّهُمْ فِيهَا مَا يَشَاءُونَ خَالِدِينَ ۚ
كَانَ عَلَىٰ رَبِّكَ وَعْدًا مَّسْئُولًا ١٦ وَيَوْمَ يَحْشُرُهُمْ وَمَا
يَعْبُدُونَ مِن دُونِ اللَّهِ فَيَقُولُ أَأَنتُمْ أَضْلَلْتُمْ عِبَادِي
هَٰؤُلَاءِ أَمْ هُمْ ضَلُّوا السَّبِيلَ ١٧ قَالُوا سُبْحَانَكَ مَا كَانَ
يَنبَغِي لَنَا أَن نَّتَّخِذَ مِن دُونِكَ مِنْ أَوْلِيَاءَ وَلَٰكِن مَّتَّعْتَهُمْ
وَآبَاءَهُمْ حَتَّىٰ نَسُوا الذِّكْرَ وَكَانُوا قَوْمًا بُورًا ١٨
فَقَدْ كَذَّبُوكُم بِمَا تَقُولُونَ فَمَا تَسْتَطِيعُونَ صَرْفًا
وَلَا نَصْرًا ۚ وَمَن يَظْلِم مِّنكُمْ نُذِقْهُ عَذَابًا كَبِيرًا ١٩
وَمَا أَرْسَلْنَا قَبْلَكَ مِنَ الْمُرْسَلِينَ إِلَّا إِنَّهُمْ لَيَأْكُلُونَ
الطَّعَامَ وَيَمْشُونَ فِي الْأَسْوَاقِ ۗ وَجَعَلْنَا بَعْضَكُمْ
لِبَعْضٍ فِتْنَةً أَتَصْبِرُونَ ۗ وَكَانَ رَبُّكَ بَصِيرًا ٢٠

⑫不信仰者たちが遠く離れた所から連れられて来るとき、かれらはその燃える火の怒り狂い唸(うな)るような音を聞く。

⑬両手は鎖で首に繋がれて、かれらが地獄の狭い場所に投げ込まれるとき、かれらはそれから逃れようとして、自分の破滅を願い出る。

⑭今日になって一つだけの破滅を願ってもだめなのだ。たくさんの破滅を願うように。しかし自分が望むものが与えられないのは同じこと。永久に苦痛の懲罰を受け続けるのだ。

⑮使徒よ、言え。「このような地獄が良いのか、それともアッラーを畏れる人に約束された永遠の恵みがある楽園が良いのか。この楽園は信者たちにとっては、報いであり、復活の日に向かう住居なのだ。」

⑯かれらには楽園に望むものがすべてあり、アッラーを畏れる者たちが望むアッラーの約束だった。そしてその願いが叶うのは、アッラーが決して約束を破ることはないからだ。

⑰**かれ**が不信仰者とアッラーの他にかれらが仕える偶像たちを一緒に召集する日、**かれ**はその偶像たちに言う。「あなた方が**わたし**の僕を迷い去らせたのか。あるいは、かれらがこの道を自ら踏み外したのか。」

⑱偶像たちは言う。「**あなた**に賛美あれ。**あなた**の他に擁護者を持つようなことは、わたしたちは絶対にするつもりはない。だからかれらにそうするように、呼び掛けるはずはない。しかし**あなた**がかれらとかれらの先祖に現世での享楽を与えたので、徐々にかれらは破滅に向かったのだ。そして**あなた**を忘れ、**あなた**と同列に他のものを奉ったのだ。かれらはその悲惨さに運命付けられている人々なのである。」

⑲偶像崇拝者たちよ、アッラーの他に崇拝した神々は、あなた方が言ったことを嘘として拒否した。だから、あなた方は苦痛を避けられず、また助けも来ないのだ。信者たちよ、あなた方の中でそのような同列者を配して不正を行なう人には、誰でも**われら**は甚大な苦痛を与える。それは偶像崇拝者たちと同様なのだ。

⑳使徒よ、あなた以前にも**われら**は、食べたり、市場を歩いたりしない使徒たちを遣わしたことがない。だからあなたもそれと同じこと。人々よ、**われら**は富、貧困、健康や病気など色々の程度をもって、あなた方を互いに試すような試練を創ったのだ。それで、あなた方は耐え忍べるか。その忍耐振りで報いよう。あなたの主(アッラー)は、耐え忍ぶ者すべてをお見通しで、また耐え忍べない者もご存じである。従う者たちと従わない者たちをよく知っておられる。

本諸節の功徳:

●アッラーの懲罰の恐れとその報奨への望みのいずれをも持っていることの必要性。
●現世の享楽は、アッラーの唱念を忘れさせる。
●使徒たちが人間であるのは、アッラーの恵みであり、人々が容易に接することができるようにするためである。
●恵みと試練に程度の差があるのは、アッラーが人間を試しておられるのである。